

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																									
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																									
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																									
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																																							
文化・教養		専門課程		グラフィックデザイン科 (広告デザイン専攻コース)		平成7年文部省告示第147号		—																																							
学科の目的		グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対して的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。																																													
認定年月日		平成28年2月19日																																													
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技																																			
2年		昼間		1920		160		1760		0		0																																			
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		時間																																			
140人		129人		0人		5人		18人		23人																																					
学期制度		■1学期: 4月1日～8月31日 ■2学期: 9月1日～12月31日 ■3学期: 1月1日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 試験、課題、平常点、出席点 評価の方法: 科目毎に試験、課題を行い、その点数に平常点、出席点等を加味し算出																																							
長期休み		■学年始: 4月1日～4月7日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月24日～1月5日 ■学年末: 3月20日～3月31日				卒業・進級条件		卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																							
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。				課外活動		■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																							
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 広告制作会社、デザイン事務所、印刷会社、Webプロダクション ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。 ■卒業生数 28人 ■就職希望者数 28人 ■就職者数 26人 ■就職率 92.8% ■卒業者に占める就職者の割合 92.8% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文部科学省後援 公益財団法人国際文化カレッジ レタリング技能検定</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>文部科学省後援 色彩検定</td> <td>③</td> <td>30人</td> <td>30人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	文部科学省後援 公益財団法人国際文化カレッジ レタリング技能検定	③	30人	25人	文部科学省後援 色彩検定	③	30人	30人																								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																												
文部科学省後援 公益財団法人国際文化カレッジ レタリング技能検定	③	30人	25人																																												
文部科学省後援 色彩検定	③	30人	30人																																												
中途退学の現状		■中途退学者 10名 令和3年4月1日時点において、在学者129名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者119名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の原因 疾病治療、進路変更と経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会、保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペイベント等の充実等				■中退率 8%																																									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。
 教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月4日 11:00～12:30

第2回 令和4年3月1日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題に取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「Adobe MAX」(主催: Adobe Inc.)	連携企業等: Adobe Inc.
期間:	令和3年10月27日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「佐藤可士和の思考とデザイン」講師: 佐藤可士和氏	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学び」を実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第30回広告セミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月21日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「別解が生まれた瞬間」講師: 山崎 博司氏	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(専門課程グラフィックデザイン科 (広告デザイン専攻コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		セールスプロモーションI	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1 ②	36			○		○			○	
2	○		アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1 通	32			○		○		○		
3	○		ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1 ②	12			○		○			○	
4	○		タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1 ① ②	72			○		○		○		
5	○		写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1 ① ②	72			○		○			○	
6	○		ドローイング	形のとり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつなげる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1 通	96			○		○			○	
7	○		知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1 ②	12			△	○		○		○	○
8	○		造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1 ①	36			○		○		○		
9	○		社会人基礎	どんな仕事(職種)であれ、それを行っていく上で必要とされる力=社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える(知る→考える→伝える)という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1 ②	12			○		○			○	

10	○		広告概論	様々な広告サンプルや事例を通じて広告媒体の展開方法を学ぶ。また、広告業界で使用されている専門用語を各ジャンルの事例や資料を通じて深く理解する。	1 ①	12	○		○	○								
11	○		広告デザイン I	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、広告デザインの媒体別基礎知識と企画書の作成とともに市場調査分析、ポジショニング、消費者リストアップ、ターゲットの設定、コンセプトメイキングからカンプの表現手法までを指導する。	1 ① ②	72	○		○	○								
12	○		現代デザイン史	現代グラフィックデザインの基礎的な用語、歴史、思想、運動、デザインスタイル、時代を代表する作者とその作品の知識を修得する。また過去の歴史が現在のグラフィックデザインに活用されている事例を学ぶことからデザインスタイルの応用力の理解を深める。	1 ①	12	○		○	○								
13	○		ホームページ基礎	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した教員が、その経験を生かしてHTMLマークアップによるインターネット上での情報発信技術とスタイルシート・コーディングによるウェブデザインの技法を指導する。	1 通	96	○		○	○								
14	○		ビジネスマナー	接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感の持てるマナーやコミュニケーション力を習得する。	1 ①	24	○		○	○								
15	○		DTP基礎	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	1 ① ②	72	○		○	○								
16	○		ベーシックデザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1 ① ②	72	○		○	○								
17	○		社会研究 I	企業及び職種・業種の研究を行い就職への動機付けを行う。履歴書の書き方やポイントメントの取り方、挨拶の仕方など就職活動に必要なコミュニケーション方法を身につける。また一人一人と就職についての面接、相談を行い丁寧に就職活動を支援していく。	1 ② ③	20	○		○	○								
18	○		修了制作	広告の実務経験がある教員が、地域活性化と社会貢献を目標に自らテーマを求め、グラフィックデザインによる解決策を指導する。問題を提起し、解決策の企画立案から調査分析、デザイン制作、プレゼンテーションまでの広告の一連の流れを修得する。	1 ③	176	○		○	○								
19	○		総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 ① ②	24	○		○	○								

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 ①	12		○		○	○		
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 ①	36		○		○		○	
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
23	○		DTP演習	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 ① ②	60		○		○		○	
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 ① ②	60		○		○		○	
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したもから意味のあるアウトプットを目指す。	2 ① ②	48		○		○		○	
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 ② ③	384		○		○		○	
29	○	○	Webデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した経験のある教員がその経験を生かしてPHPフレームワークのWordPressを使用し、ウェブサイトを実制作しながらSEO、ウェブデザイン、コーディング（HTML、CSS、PHP）を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	

30	○	コーディング演習	Webデザイン制作会社でWebデザイナーとして勤務実績のある教員が指導にあたる。スマートフォンに特化したデザインを制御・構築するためのJavaScript（jQueryライブラリ）の理解を深める演習を行う。	2 ① ②	60	○	○	○						
31	○	広告演習	広告制作、グラフィックデザイン制作に携わってきた教員が指導する。雑誌表紙デザイン、オリジナルロゴタイプデザイン、雑誌見開きデザイン、コラム、CDジャケットデザインなど印刷媒体のデザインを通じて実践的なレイアウト方法を学習する。	2 ① ②	60	○	○	○						
合計				31	科目	1920			単位時間					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席率が80%以上であること ・ 当該年次の科目全てに合格すること ・ 卒業制作または卒業研究に合格すること ・ 当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1学年の学期区分	3期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1学期の授業期間	12週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																															
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																															
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																															
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																																														
文化・教養	専門課程	グラフィックデザイン科 (雑誌編集(エディター)専攻コース)				平成7年文部省告示第147号	—																																														
学科の目的	グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対して的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。																																																				
認定年月日	平成28年2月19日																																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																														
2年	昼間	1920	160	1760	0	0	0																																														
生徒総定員	生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																															
140人	129人		0人	5人	18人	23人																																															
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 試験、課題、平常点、出席点 評価の方法: 科目毎に試験、課題を行い、その点数に平常点、出席点等を加味し算出																																																
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級条件	卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																																
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 広告制作会社、デザイン事務所、印刷会社、Webプロダクション ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。 ■卒業生数 0 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 0 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>文部科学省後援色彩検定</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定	③	0人	0人	文部科学省後援色彩検定	③	0人	0人																																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																																		
文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定	③	0人	0人																																																		
文部科学省後援色彩検定	③	0人	0人																																																		
中途退学の現状	■中途退学者 10名 ■中退率 8% 令和3年4月1日時点において、在学者129名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者119名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 疾病治療、進路変更と経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会、保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペイベント等の充実 等																																																				

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体： 0 受審年月： 0 評価結果を掲載したホームページURL 0</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.kumamoto-design.ac.jp</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。
 教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)
 年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月4日 11:00～12:30
 第2回 令和4年3月1日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題を取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 「Adobe MAX」(主催: Adobe Inc.)	連携企業等: Adobe Inc.
期間: 令和3年10月27日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容 「佐藤可士和の思考とデザイン」 講師: 佐藤可士和 氏	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 主体的・対話的で深い学びを実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間: 令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容 Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名: 職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間: 令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容 職業教育のマネジメントのポイントを先行事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第30回広告セミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間: 令和4年9月21日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容 「別解が生まれた瞬間」講師: 山崎 博司氏	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間: 令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容 基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名: 「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間: 令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容 ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名: DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間: 令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容 産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(専門課程グラフィックデザイン科(雑誌編集(エディター)専攻コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		セールスプロモーションI	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1 ②	36			○		○			○	
2	○		アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1 通	32			○		○		○		
3	○		ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1 ②	12			○		○			○	
4	○		タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1 ① ②	72			○		○		○		
5	○		写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1 ① ②	72			○		○			○	
6	○		ドローイング	形のとり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつなげる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1 通	96			○		○			○	
7	○		知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1 ②	12			△	○		○		○	○
8	○		造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1 ①	36			○		○		○		
9	○		社会人基礎	どんな仕事(職種)であれ、それを行っていく上で必要とされる力=社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える(知る→考える→伝える)という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1 ②	12			○		○			○	

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 ①	12		○		○	○		
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 ①	36		○		○		○	
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
23	○		DTP演習	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 ① ②	60		○		○		○	
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 ① ②	60		○		○		○	
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したものから意味のあるアウトプットを目指す。	2 ① ②	48		○		○		○	
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 ② ③	384		○		○		○	
29	○		編集企画	出版社で編集長として勤務した教員がその経験を生かして雑誌紙面の企画を作るにあたって文章の表現力をまず身に付け、魅力ある紙面づくりはどのように企画されるのか指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	

30	○	広告写真	広告業界で広告写真に携わった経験を持つ教員がその経験を生かして広告媒体における写真撮影方法と関連する機材の操作及び設定法の基本を指導し、広告業界におけるフォトグラファーの撮影技術を理解する。	2 ① ②	60		○	○	○
31	○	エディトリアルデザイン	雑誌表紙デザイン、オリジナルロゴタイプデザイン、雑誌見開きデザイン、コラム、CDジャケットデザインなど印刷媒体のデザインを通じて実践的なレイアウト方法を学習する。その後、高校生を対象とした印刷物を企画立案、取材、印刷入稿までを実施し履修した学びの確認を行う。	2 ① ②	60		○	○	○
合計				31	科目	1920		単位時間	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1学年の学期区分	3期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1学期の授業期間	12週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																																						
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日	校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																																						
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日	理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																						
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																																					
文化・教養	専門課程	グラフィックデザイン科 (イラストレーション専攻コース)			平成7年文部省告示第147号	—																																					
学科の目的	グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対して的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。																																										
認定年月日	平成28年2月19日																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																				
2年	昼間	1920	160	1760	0	0	0																																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																					
140人		129人	0人	5人	18人	23人																																					
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 試験、課題、平常点、出席点 評価の方法: 科目毎に試験、課題を行い、その点数に平常点、出席点等を加味し算出する																																						
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級条件	卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 広告制作会社、デザイン事務所、印刷会社、Webプロダクション ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。 ■卒業生数 6人 ■就職希望者数 4人 ■就職者数 4人 ■就職率 66% ■卒業者に占める就職者の割合 : 66% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>文部科学省後援色彩検定</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定	③	6人	6人	文部科学省後援色彩検定	③	6人	6人																								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定	③	6人	6人																																								
文部科学省後援色彩検定	③	6人	6人																																								
中途退学の現状	■中途退学者 10名 令和3年4月1日時点において、在学者129名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者119名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 疾病治療、進路変更と経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会、保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペイベント等の充実等			■中退率 8%																																							

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体： 0 受審年月： 0 評価結果を掲載したホームページURL 0</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>https://www.kumamoto-design.ac.jp</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本テザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本テザイン専門学校 統括部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本テザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本テザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月4日 11:00～12:30

第2回 令和4年3月1日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題を取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが制作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「Adobe MAX」(主催: Adobe Inc.)	連携企業等: Adobe Inc.
期間:	令和3年10月27日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「佐藤可士和の思考とデザイン」講師: 佐藤可士和氏	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学び」を実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第30回広告セミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月21日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「別解が生まれた瞬間」講師: 山崎 博司氏	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他()
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・学修支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他()
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(専門課程グラフィックデザイン科 (イラストレーション専攻コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		セールスプロモーションⅠ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1 ②	36			○		○			○	
2	○		アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1 通	32			○		○		○		
3	○		ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1 ②	12			○		○			○	
4	○		タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1 ① ②	72			○		○		○		
5	○		写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1 ① ②	72			○		○			○	
6	○		ドローイング	形のとり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつなげる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1 通	96			○		○			○	
7	○		知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1 ②	12			△	○		○		○	○
8	○		造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1 ①	36			○		○		○		
9	○		社会人基礎	どんな仕事(職種)であれ、それを行っていく上で必要とされる力=社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える(知る→考える→伝える)という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1 ②	12			○		○			○	

10	○		広告概論	様々な広告サンプルや事例を通じて広告媒体の展開方法を学ぶ。また、広告業界で使用されている専門用語を各ジャンルの事例や資料を通じて深く理解する。	1 ①	12	○		○	○		
11	○		広告デザイン I	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、広告デザインの媒体別基礎知識と企画書の作成とともに市場調査分析、ポジショニング、消費者リストアップ、ターゲットの設定、コンセプトメイキングからカンプの表現手法までを指導する。	1 ① ②	72	○		○		○	
12	○		現代デザイン史	現代グラフィックデザインの基礎的な用語、歴史、思想、運動、デザインスタイル、時代を代表する作者とその作品の知識を修得する。また過去の歴史が現在のグラフィックデザインに活用されている事例を学ぶことからデザインスタイルの応用力の理解を深める。	1 ①	12	○		○		○	
13	○		ホームページ基礎	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した教員が、その経験を生かしてHTMLマークアップによるインターネット上での情報発信技術とスタイルシート・コーディングによるウェブデザインの技法を指導する。	1 通	96	○		○		○	
14	○		ビジネスマナー	接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感の持てるマナーやコミュニケーション力を習得する。	1 ①	24	○		○		○	
15	○		DTP基礎	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	1 ① ②	72	○		○		○	
16	○		ベーシックデザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1 ① ②	72	○		○		○	
17	○		社会研究 I	企業及び職種・業種の研究を行い就職への動機付けを行う。履歴書の書き方やポイントメントの取り方、挨拶の仕方など就職活動に必要なコミュニケーション方法を身につける。また一人一人と就職についての面接、相談を行い丁寧に就職活動を支援していく。	1 ② ③	20	○		○		○	
18	○		修了制作	広告の実務経験がある教員が、地域活性化と社会貢献を目標に自らテーマを求め、グラフィックデザインによる解決策を指導する。問題を提起し、解決策の企画立案から調査分析、デザイン制作、プレゼンテーションまでの広告の一連の流れを修得する。	1 ③	176	○		○		○	
19	○		総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 ① ②	24	○		○		○	

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 ①	12		○		○	○		
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 ①	36		○		○		○	
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
23	○		DTP演習	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 ① ②	60		○		○		○	
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 ① ②	60		○		○		○	
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したものから意味のあるアウトプットを目指す。	2 ① ②	48		○		○		○	
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 ② ③	384		○		○		○	
29	○	○	オリジナルイラスト	様々なモチーフでイラストを描くことで技術やテイスト（作風）の幅を広げていく、また仕事として想定されるイラストマップ、キャラクターデザイン、立体物にプリントされる場合などで実習する。	2 ① ②	120		○		○		○	

30	○	テクニカルイラスト	出版業界、印刷業界でイラストレーターとして実績を積んできた教員が指導する。絵を描く上で大切な資料収集や作品のモチーフについての研究することでイラストレーションがどのように社会に関りを持ち貢献していくのか考察し、作品制作についてはコンペで発表し、鑑賞、批評することでオリジナリティを高めていくことを学習する。	2 ① ②	60	○	○	○
合計			30 科目	1920		単位時間		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出席率が80%以上であること ・ 当該年次の科目全てに合格すること ・ 卒業制作または卒業研究に合格すること ・ 当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1 学年の学期区分	3 期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1 学期の授業期間	11 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
熊本デザイン専門学校	平成5年12月24日	校長 内藤謙一	〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人未来創造学園	平成22年3月2日	理事長 吉山昌利	〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																															
文化・教養	専門課程	グラフィックデザイン科 (雑貨・パッケージデザイン専攻コース)	平成7年文部省告示第147号	—																															
学科の目的	グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対して的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。																																		
認定年月日	平成28年2月19日																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	1920	160	1760	0	0	0																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																														
140人	129人	0人	5人	18人	23人																														
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 試験、課題、平常点、出席点 評価の方法: 科目毎に試験、課題を行い、その点数に平常点、出席点等を加味し算出																															
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 広告制作会社、デザイン事務所、印刷会社、Webプロダクション ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。 ■卒業生数 10 人 ■就職希望者数 9 人 ■就職者数 9 人 ■就職率 90 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 90 % ■その他 ・進学者数: 1人 (令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文部科学省後援 公益財団法人 国際文化カレッジ レタリング技能検定</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>文部科学省後援 色彩検定</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	文部科学省後援 公益財団法人 国際文化カレッジ レタリング技能検定	③	10人	8人	文部科学省後援 色彩検定	③	10人	8人																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																
文部科学省後援 公益財団法人 国際文化カレッジ レタリング技能検定	③	10人	8人																																
文部科学省後援 色彩検定	③	10人	8人																																
中途退学の現状	■中途退学者 10 名 令和3年4月1日時点において、在学者129名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者119名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の原因 疾病治療、進路変更と経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会・保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペ・イベント等の充実 等		■中退率	8 %																															

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体： 0 受審年月： 0 評価結果を掲載したホームページURL 0</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.kumamoto-design.ac.jp</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月4日 11:00～12:30

第2回 令和4年3月1日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題を取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「Adobe MAX」(主催: Adobe Inc.)	連携企業等: Adobe Inc.
期間:	令和3年10月27日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「佐藤可士和の思考とデザイン」講師: 佐藤可士和氏	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学びを実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第30回広告セミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月21日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「別解が生まれた瞬間」講師: 山崎 博司氏	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2)各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3)教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6)学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7)学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8)学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9)学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(専門課程グラフィックデザイン科(雑貨・パッケージデザイン専攻コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		セールスプロモーションⅠ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1 ②	36			○		○			○	
2	○		アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1 通	32			○		○		○		
3	○		ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1 ②	12			○		○			○	
4	○		タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1 ① ②	72			○		○		○		
5	○		写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1 ① ②	72			○		○			○	
6	○		ドローイング	形のとおり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつなげる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1 通	96			○		○			○	
7	○		知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1 ②	12			△	○		○		○	○
8	○		造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1 ①	36			○		○		○		
9	○		社会人基礎	どんな仕事(職種)であれ、それを行っていく上で必要とされる力=社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える(知る→考える→伝える)という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1 ②	12			○		○			○	

10	○		広告概論	様々な広告サンプルや事例を通じて広告媒体の展開方法を学ぶ。また、広告業界で使用されている専門用語を各ジャンルの事例や資料を通じて深く理解する。	1 ①	12	○		○	○			
11	○		広告デザイン I	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、広告デザインの媒体別基礎知識と企画書の作成とともに市場調査分析、ポジショニング、消費者リストアップ、ターゲットの設定、コンセプトメイキングからカンプの表現手法までを指導する。	1 ① ②	72	○		○		○		
12	○		現代デザイン史	現代グラフィックデザインの基礎的な用語、歴史、思想、運動、デザインスタイル、時代を代表する作者とその作品の知識を修得する。また過去の歴史が現在のグラフィックデザインに活用されている事例を学ぶことからデザインスタイルの応用力の理解を深める。	1 ①	12	○		○		○		
13	○		ホームページ基礎	印刷会社の制作部でWebデザインを担当した教員が、その経験を生かしてHTMLマークアップによるインターネット上での情報発信技術とスタイルシート・コーディングによるウェブデザインの技法を指導する。	1 通	96	○		○		○		
14	○		ビジネスマナー	接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感の持てるマナーやコミュニケーション力を習得する。	1 ①	24	○		○		○		
15	○		DTP基礎	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	1 ① ②	72	○		○		○		
16	○		ベーシックデザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1 ① ②	72	○		○		○		
17	○		社会研究 I	企業及び職種・業種の研究を行い就職への動機付けを行う。履歴書の書き方やポイントメントの取り方、挨拶の仕方など就職活動に必要なコミュニケーション方法を身につける。また一人一人と就職についての面接、相談を行い丁寧に就職活動を支援していく。	1 ② ③	20	○		○		○		
18	○		修了制作	広告の実務経験がある教員が、地域活性化と社会貢献を目標に自らテーマを求め、グラフィックデザインによる解決策を指導する。問題を提起し、解決策の企画立案から調査分析、デザイン制作、プレゼンテーションまでの広告の一連の流れを修得する。	1 ③	176	○		○		○		
19	○		総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 ① ②	24	○		○		○		

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 ①	12		○		○	○		
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 ①	36		○		○		○	
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
23	○		DTP演習	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 ① ②	60		○		○		○	
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 ① ②	60		○		○		○	
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したものから意味のあるアウトプットを目指す。	2 ① ②	48		○		○		○	
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 ② ③	384		○		○		○	
29	○		パッケージデザイン	平面を山折り谷折りすることで、立体を形成することを理解し、紙の質感、厚み、色の違いからデザイン制作の仕上がりの違いを理解する。パッケージと雑貨が必要とされるシーンをリアルに浮き上がらせ、デザインに定着させる能力を身につける。	2 ① ②	60		○		○		○	

30	○	ビジュアルデザイン	前期は各パッケージの構造をダミー制作を通じて理解し、中期は、デザインを美しく見せる文字組みの基本や、論理的思考を磨く訓練を行う。また、実際の現場に近いプロセスでデザイン展開を身につける力を養うとともに卒業後、しなやかな感性を活かし過ごしていくための発想や、自立した社会人になるための考え方などを育成する。	2 ① ②	60	○	○	○
31	○	デザイン書道	パッケージデザインにおいてニーズの高いデザイン書道の基礎的な知識と技術を数多くの表現方法と実践課題を通して修得する。デジタル表現にない線の抑揚、自作の画材、広告やパッケージへの生かし方を実践的に習得し、デジタル時代に希少な表現の幅を広げます。	2 ① ②	60	○	○	○
合計				31 科目	1920	単位時間		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1 学年の学期区分	3 期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1 学期の授業期間	12 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																																										
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日	校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																										
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																																										
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日	理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																										
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																																									
文化・教養	専門課程	グラフィックデザイン科 (マンガ・キャラクター専攻コース)			平成7年文部省告示第147号	—																																									
学科の目的	グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対して的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。																																														
認定年月日	平成28年2月19日																																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																								
2年	昼間	1920	160	1760	0	0	0																																								
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																									
140人		129人	0人	5人	18人	23人																																									
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 試験、課題、平常点、出席点 評価の方法: 科目毎に試験、課題を行い、その点数に平常点、出席点等を加味し算出																																										
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級条件	卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 広告制作会社、デザイン事務所、印刷会社、Webプロダクション ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。 ■卒業生数 6人 ■就職希望者数 6人 ■就職者数 6人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 : 100% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>文部科学省後援色彩検定</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定	③	8人	6人	文部科学省後援色彩検定	③	8人	8人																												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																												
文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定	③	8人	6人																																												
文部科学省後援色彩検定	③	8人	8人																																												
中途退学の現状	■中途退学者 10名 令和3年4月1日時点において、在学者129名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者119名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 疾病治療、進路変更と経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会、保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペイベント等の充実等			■中退率 8%																																											

経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体： 0 受審年月： 0 評価結果を掲載したホームページURL 0</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.kumamoto-design.ac.jp</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。
 教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月4日 11:00～12:30

第2回 令和4年3月1日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題を取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「Adobe MAX」(主催: Adobe Inc.)	連携企業等: Adobe Inc.
期間:	令和3年10月27日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「佐藤可士和の思考とデザイン」講師: 佐藤可士和氏	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学びを実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先行事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第30回広告セミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月21日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「別解が生まれた瞬間」講師: 山崎 博司氏	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(専門課程グラフィックデザイン科 (マンガ・キャラクター専攻コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		セールスプロモーションⅠ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1 ②	36			○		○			○	
2	○		アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1 通	32			○		○		○		
3	○		ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1 ②	12			○		○			○	
4	○		タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1 ① ②	72			○		○		○		
5	○		写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1 ① ②	72			○		○			○	
6	○		ドローイング	形のととり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつなげる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1 通	96			○		○			○	
7	○		知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1 ②	12			△	○		○		○	○
8	○		造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1 ①	36			○		○		○		
9	○		社会人基礎	どんな仕事(職種)であれ、それを行っていく上で必要とされる力=社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える(知る→考える→伝える)という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1 ②	12			○		○			○	

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 ①	12		○		○	○							
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 ①	36		○		○		○						
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 ① ②	60		○		○		○						
23	○		DTP演習	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 ① ②	60		○		○		○						
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○						
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 ① ②	60		○		○		○						
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 ① ②	60		○		○		○						
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したもから意味のあるアウトプットを目指す。	2 ① ②	48		○		○		○						
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 ② ③	384		○		○		○						
29	○	○	キャラクター演習	マンガ制作及び、広くキャラクター制作に役に立つ発想法、ストーリーを俯瞰する視点で全体を把握しながらキャラクターの人格形成を考える手法を理解する。	2 ① ②	60		○		○		○						

30	○	シナリオ演習	実際に月刊少年誌で連載の経験のある教員が、オリジナルの物語が描けるようにストーリーの構成力を繰り返し制作することで精度を高める技術を指導する。	2 ① ②	60			○		○			○
31	○	マンガ演習	週刊漫画雑誌で連載を経験した教員が、マンガ制作の基本の4コマ漫画を制作することでコマ割りの効果的な表現方法や制作技術を指導する。	2 ① ②	60			○		○			○
合計				31	科目	1920			単位時間				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1 学年の学期区分	3 期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1 学期の授業期間	12 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																				
熊本デザイン専門学校	平成5年12月24日	校長 内藤謙一	〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																				
学校法人未来創造学園	平成22年3月2日	理事長 吉山昌利	〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																			
文化・教養	専門課程	グラフィックデザイン科 (写真デザイン専攻コース)	平成7年文部省告示第147号	—																																			
学科の目的	グラフィックデザイン業界、出版業界で必須とされる造形、色彩、グラフィックソフト等について学修し、ユーザーのニーズに対して的確なイラスト表現やデザイン制作ができる人材を育成することを目的とする。																																						
認定年月日	平成28年2月19日																																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																
2年	昼間	1920	160	1760	0	0	0																																
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																		
140人	129人	0人	5人	18人	23人																																		
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 試験、課題、平常点、出席点 評価の方法: 科目毎に試験、課題を行い、その点数に平常点、出席点等を加味し算出																																			
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日		卒業・進級条件	卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 広告制作会社、デザイン事務所、印刷会社、Webプロダクション ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。 ■卒業生数 4人 ■就職希望者数 3人 ■就職者数 2人 ■就職率 66.6% ■卒業生に占める就職者の割合 66.6% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>文部科学省後援色彩検定</td> <td>③</td> <td>4人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定	③	4人	3人	文部科学省後援色彩検定	③	4人	4人																				
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																				
文部科学省後援公益財団法人国際文化カレッジレタリング技能検定	③	4人	3人																																				
文部科学省後援色彩検定	③	4人	4人																																				
中途退学の現状	■中途退学者 10名 令和3年4月1日時点において、在学者129名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者119名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 疾病治療、進路変更と経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会、保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペイベント等の充実等		■中退率 8%																																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。
 教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
川口 滋	くまもとデザイン協議会会長／有限会社ダーク会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②
内藤謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
児玉 竜也	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月4日 11:00～12:30

第2回 令和4年3月1日 13:30～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回

- ・知的財産学は、1年次中期にて授業実施。権利の話とデザインを取り巻く業界の状況を時系列で説明しながら学習させる
- ・2年生は引き続き積極的に企業課題に取り組んでいく。

第2回

- ・知的財産学で権利について自分の描いたイラストの著作権やバイト先の店名に関する権利を例に学習させる
- ・2年次中期の授業において企業と共同で紙の販促物の提案として熊本らしいペーパーツール制作に取り組む
- ・次年度、産学連携の企業案件を進めるにあたって契約書をもとに今後、産学連携に取り組む。また、それについて学生に契約について周知し学習させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による緻密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学習効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
知的財産学	本演習はデザイン業界はもとより社会的に重要とされている著作権、意匠権、商標権などの知的財産に関わる基礎的知識や活用方法を履修し、自らが制作した著作物やクライアントから依頼された制作物をビジネス上、管理を円滑に行うための基礎知識を履修する。 また、自らが創作した著作物や創作物を模倣された場合の対処方法についても検討を行っていく。	株式会社フィールドワークス
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「Adobe MAX」(主催: Adobe Inc.)	連携企業等: Adobe Inc.
期間:	令和3年10月27日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「佐藤可士和の思考とデザイン」講師: 佐藤可士和氏	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学びを実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	第30回広告セミナー	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月21日(水) 14:30~16:00	対象: 専門学校教職員等
内容:	「別解が生まれた瞬間」講師: 山崎 博司氏	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
 学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。
 (3)学校関係者評価結果の活用状況
 学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
 URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
 公表時期: 令和4年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2)各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3)教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6)学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7)学生納付金・学修支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8)学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9)学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。
 (3)情報提供方法
 (ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
 URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
 公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(専門課程グラフィックデザイン科 (写真デザイン専攻コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		セールスプロモーションⅠ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が指導にあたる。ケーススタディからマーケティングの基礎知識、販売促進の基本を学ぶ。	1 ②	36			○		○			○	
2	○		アイデア発想基礎	広告代理店で広告やCMのディレクションに携わった教員が発想を指導する。授業を通じて「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1 通	32			○		○		○		
3	○		ビジネス概論	経営コンサルタントの実務経験のある教員が利益、集客、価格、などビジネスの仕組みを、各業界別の事例をもとに指導する。ビジネスの構造、流通の仕組み、利益構造の基礎的な知識を修得する。	1 ②	12			○		○			○	
4	○		タイポグラフィ	広告代理店の制作部でグラフィックデザインを担当した教員がレタリング技能検定の指導する。また検定後は、文字のデザインの基礎からロゴタイプのデザインのバリエーション展開の演習を行う。	1 ① ②	72			○		○		○		
5	○		写真基礎	写真スタジオで広告写真に携わった経験を持つ教員が、カメラの扱い方から写真の基礎知識・技術の指導を行う。	1 ① ②	72			○		○			○	
6	○		ドローイング	形のととり方、構図、バランス、質感の観察力と表現力を養う。モノを創る基本となる見る力・描く力を養い、観察力・表現力を高めていく。形を正確に捉えることから始まり、明暗・立体感・質感の表現へとつなげる。また細密描写や様々な画材による表現テクニックも学習する。	1 通	96			○		○			○	
7	○		知的財産学	弁理士として知的財産業務に携わった経験を持つ教員が、知的財産の基礎知識と活用方法、対処方法について、様々な具体的事例をもとに講義する。	1 ②	12			△	○	○			○	○
8	○		造形演習	立方体を同一の型とし、異なる素材による質感、量感、立体感。存在感の違いを考察し、美意識の理論的思考を養う。同時に手仕事による職人的技術を修得し、仕上げ技術が美に影響する重要性を実技を理解する。	1 ①	36			○		○		○		
9	○		社会人基礎	どんな仕事(職種)であれ、それを行っていく上で必要とされる力=社会人基礎力を磨く。社会の出来事を知る→その背景を考える→考えたことを他人に伝える(知る→考える→伝える)という流れを重視し、実社会にそのままつながる学びの場とする。	1 ②	12			○		○			○	

20	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 ①	12		○		○	○		
21	○		セールスプロモーションⅡ	広告代理店においてクリエイティブディレクターとして広告の企画からマネジメントまでを担当した実務経験のある教員が、マーケティングからターゲットの分析、設定、チャート作成、企画書作成、プレゼンテーションまでの一連の流れを指導する。	2 ①	36		○		○		○	
22	○		ホームページデザイン	印刷会社の制作部でWebデザインを担当し制作した経験のある教員がその経験を生かして、HTMLマークアップによる情報の階層化をすることでプログラミングへの検索エンジン最適化をさせ、CSSコーディングによるウェブデザインのトレンドを踏襲しUI、UXを最適化することを指導する。	2 ① ②	60		○		○		○	
23	○		DTP演習	Macintosh を用いて Illustrator、Photoshop、InDesignの基本的操作と技術を修得する。雑誌の誌面、チラシ、パンフレットのデザイン制作を通して、文字の優先順位や可読性を理解し、素材のレイアウト、配色計画、デザインの素材制作の技術を、校正を繰り返しながら習熟する。	2 ① ②	60		○		○		○	
24	○		広告デザインⅡ	広告代理店のクリエイティブ課で広告デザインを担当した教員が、交通広告、テレビCM、地域活性化のためのポスター制作を指導する。	2 ① ②	60		○		○			○
25	○		CIデザイン	ブランディングデザインの基本的な考え方であるCIデザインのプロセスを学習。演習課題や産学連携課題に取り組むことで社会におけるブランディングの位置づけや重要性を理解する。	2 ① ②	60		○		○		○	
26	○		Web演習	Web制作業務に携わった経験を持つ教員がその経験を生かしてWebフレームワークに関する技術を指導する。	2 ① ②	60		○		○			○
27	○		ビジュアル研究	業界講話や活躍されているデザイナーを紹介し、自身の就職活動について意欲的に考える姿勢を身に付ける。グループワークも交えデザインの考え方を深め言葉で表現する力を養う。そして、その考察したものから意味のあるアウトプットを目指す。	2 ① ②	48		○		○		○	
28	○		卒業制作	卒業制作は各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきたグラフィックデザイン領域に関する専門的な知識や、技術、感性、表現などを使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 ② ③	384		○		○		○	
29		○	キャラクター演習	マンガ制作及び、広くキャラクター制作に役に立つ発想法、ストーリーを俯瞰する視点で全体を把握しながらキャラクターの人格形成を考える手法を理解する。	2 ① ②	60		○		○			○
30		○	シナリオ演習	実際に月刊少年誌で連載の経験のある教員が、オリジナルの物語が描けるようにストーリーの構成力を繰り返し制作することで精度を高める技術を指導する。	2 ① ②	60		○		○			○

31	○	マンガ演習	週刊漫画雑誌で連載を経験した教員が、マンガ制作の基本の4コマ漫画を制作することでコマ割りの効果的な表現方法や制作技術を指導する。	2 ① ②	60	○	○	○
合計			31 科目	1920		単位時間		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1 学年の学期区分	3 期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1 学期の授業期間	12 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																							
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																							
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																							
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																																						
文化・教養	文化教養専門課程	メディア映像デザイン科 (Webクリエイティブ専攻コース)				平成27年文部科学省告示 第14号	-																																						
学科の目的	映像、CG、アニメ、Web、マルチメディア等のデザイン分野において、情報社会に適応する幅広い知識と実践に必要な技術を持った人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。																																												
認定年月日	平成28年2月19日																																												
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																						
	2年 昼間	1920	224	1692	0	0	0																																						
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																							
50人		36人の内数	0人	5人	10人	15人																																							
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:																																								
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級 条件	卒業要件:																																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																								
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 映像制作会社、CG制作会社、Web制作会社、広告制作会社、写真館			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																																								
	■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報検定</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>レタリング技能検定</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	情報検定	③	2人	2人	マルチメディア検定	③	2人	9人	色彩検定	③	2人	2人	レタリング技能検定	③	2人	0人																
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																																								
	情報検定	③	2人		2人																																								
マルチメディア検定	③	2人	9人																																										
色彩検定	③	2人	2人																																										
レタリング技能検定	③	2人	0人																																										
■卒業生数 2 人																																													
■就職希望者数 2 人																																													
■就職者数 2 人																																													
■就職率 100 %																																													
■卒業者に占める就職者の割合																																													
: 100 %																																													
■その他																																													
(令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																																													
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 令和3年4月1日時点において、在学者36名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者35名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学的主要原因 進路変更			■中退率	3 %																																								
経済的支援 制度	■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会、保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペ・イベント等の充実等																																												
	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度																																												
第三者による 学校評価	■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																												
	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0			評価結果を掲載した ホームページURL 0																																									
当該学科の ホームページ URL	https://www.kumamoto-design.ac.jp																																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
篠原 たかこ	公益財団法人 画像情報教育振興協会 教育事業部 事業部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
松原 庸児	株式会社 熊本放送 総務局人事部 部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
児玉 守	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務主任	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
村田 実	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月3日 10:00～11:00

第2回 令和4年3月1日 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

<令和3年8月3日 第1回教育課程編成委員会>

(意見)ゲームCGの求人票が多く、学生の希望とのミスマッチが起こっているのではないかと。

(取組)引き続き就職担当と連携しながら学生のニーズに合った求人開拓を強化していくことにした。

(意見)感染対策は大変だと思うが、学生さんが楽しめるようなイベントを条件付きで実施してはどうか。

(取組)スポーツレクレーションや卒業制作展などを実施した。

<令和4年3月1日 第2回教育課程編成委員会>

(意見)CG習熟度の差を解決する具体的な策はなにか。

(取組)CG概論の講義を取り入れ、知識と演習を連動した授業を実施することにした。

(意見)コロナ禍で求人数が減っており、多方面の就職先を考慮して活動をするよいか。

(取組)業界求人ほかに他業種の求人開拓を進めており、インハウスデザイン職でも内定を頂いている。就活が長期化する学生に進路相談やメンタルケアをしながらサポートを続けた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 映像やコンテンツ制作において媒体や用途に合った情報を分析し伝達するための表現力を習得する。企業と連携し実務的な一連の工程に沿ってワークショップや共同制作を行い、知識・技術の向上や業界動向の理解を目的に授業を展開することを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
メディアデザイン	メディア表現を多面的に考察し、映像コンテンツの利用価値を見出す。メディアの特性を活かした情報伝達の手段や映像を活用する知識や手法を学び、送り手と受け手が相互に作用するようなサービスやコンテンツを制作する。また、編集ソフトの技術を養い、実務的な一連の工程をグループワークで演習を行う。	株式会社サンナナ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質（知識、技術、技能）が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による校内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: CGWORLD デザインビズカンファレンス
 期間: 令和3年7月15日(金)
 内容: ゲームや映像などエンターテイメントの領域だけでなく建築、製造、アパレルなど業界をリードする企業より、新たな取り組みや、技術、考えなどデザインビズの今を学び、これからを考えるカンファレンス。
 連携企業等: 株式会社ボンデジタル
 対象: 専門学校教職員等

研修名: Adobe Education Forum 2022
 期間: 2021/8/10(火)
 内容: 新しい価値を創造する力を育む大学・専門学校教育。時代の未来を切り拓き、まだ世の中にない価値を創造する力を育む教育について考えるフォーラム
 連携企業等: アドビ株式会社
 対象: 専門学校教職員等

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 主体的・対話的で深い学びを実現する Google 式10X 授業デザイン研修
 期間: 令和3年8月19日(木)13時～15時
 内容: Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー
 連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
 対象: 専門学校教職員等

研修名: 職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』
 期間: 令和4年3月2日(水)13時30～15時30分
 内容: 職業教育のマネジメントのポイントを先事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー
 連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
 対象: 専門学校教職員等

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	CGWORLD JAM ONLINE 2022	連携企業等:	株式会社ボーンデジタル
期間:	令和4年5月27日・28日	対象:	専門学校教職員等
内容:	注目作のメイキングやクリエイターによる技術解説、就職情報などのCG・映像に特化したセミナー		
研修名:	Adobe Education Forum 2022 未来をつくる教育のDX	連携企業等:	アドビ株式会社
期間:	令和4年8月2日～4日	対象:	専門学校教職員等
内容:	教育現場のデジタルツールの変化とともにすべての子どもたちの可能性を最大限にひきだし、新しい価値を創造する力を育む教育について考えるオンラインフォーラム		
研修名:	CEDEC+KYUSHU 2022	連携企業等:	CEDEC+KYUSHU 2022 実行委員会
期間:	令和4年11月12日(土)	対象:	専門学校教職員等
内容:	デジタルエンターテインメント技術の講演・展示ブース		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。		
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等:	デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時～26日(金)13時	対象:	専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修		
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程メディア映像デザイン科 (Webクリエイティブ専攻コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		社会研究 I	基本的な履歴書作成や添え状、お礼状の書き方、就職活動を行なう上で必要とされるマナーや礼儀作法を修得し、就職活動に向けて前向きに取り組む力を身に付ける。	1 ② ③	20		○			○		○		
2	○		ビジネスマナー	基本的なビジネスマナーを学び、日々のコミュニケーションを向上し、社会人として円滑な人間関係を築くための基礎力を身に付ける。	1 ①	24		○			○		○		
3	○		アイデア発想基礎	「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1 通	32		○			○		○		
4	○		総合デザイン論	建築、インテリア、芸術、グラフィック、ファッション、インターネット、ディレクションなど各デザイン分野の専門知識を広く理解し、視野の広い発想力を養う。	1 ① ②	24		○			○		○		
5	○		メディア概論	コンテンツ表現の手法や情報伝達の手段を学び、日常生活に浸透するデジタル技術やメディアの現状と社会との関わりについて理解を深める。マルチメディアに関する用語や知識を学び、デジタル制作に必要な基礎知識を身につける。	1 ① ②	36		○			○		○		
6	○		CG概論	CGによる映像表現を行うために必要な基礎知識の理解と、3次元CGや映像制作において必要となる関連知識を修得する。	1 ③	16		○			○		○		

7	○		CM企画	優れた広告を掘り起こして共通点を見出すことで表現手法や技術を習得する。CMの実例を分析し、それを基に具体的な企画を画コンテに落とし込むことで、企画力とプレゼンテーション能力を身につける。	1 ② ③	60			○		○			○
8	○		ベーシックデザイン	色の基礎知識を習得するための色彩検定取得と、その知識を生かしテーマに沿った色彩計画、平面構成力、画材による表現技法を修得する。	1 ① ②	72			○		○			○
9	○		ドローイング	基礎的な絵を描く能力を身につける。実際にモチーフを見ながら描写することで、観察力を鍛え、絵を描く上で必要な絵画的な解釈を学び、立体感、空間表現、構図等の絵画技術を修得する。	1 ① ②	72			○		○			○
10	○		写真基礎	カメラやスタジオ等の基本操作、写真の基礎知識、歴史を学び、どのような分野の撮影でも活用できるしっかりとした写真撮影に必要な知識の土台をつくる。また写真家の作品を紹介し、現実の世界を写真を通じてさらに高い観察力と表現力を修得する。	1 ① ②	72			○		○			○
11	○		DTP基礎	PCを使用した印刷物制作を通じて、IllustratorとPhotoshopのアプリケーションの基本操作を修得する。文字や画像の画面構成や配色、画像加工・補正の技能を理解して適切なビジュアル表現を身につける。	1 通	76			○		○			○
12	○		ホームページ基礎	Webサイトが稼働する基本的な仕組みや制作技術について学び、HTML、CSS、JavaScriptのコーディング能力・ソース読解能力を修得する。	1 通	96			○		○			○
13	○		3DCG基礎	Mayaの機能全般の理解と3D空間での操作感覚を養い、モデリング、マテリアル、マッピング、ライティング、カメラワーク、アニメーションの一連の工程を制作を通じて修得する。	1 通	156			○		○			○
14	○		映像基礎	映像制作における専門知識を理解する。放送規格、撮影・編集の基礎概念、制作に必要なソフトウェアの操作法を習得する。	1 通	96			○		○			○

23	○		メディアデザイン	メディアの特性を活かした情報伝達の手段やコンテンツを活用する知識やAfter EffectsやPremiereの編集技術、出力技法を修得する。	2 ①	36			○		○		○	○
24	○		映像演習	映像制作においてグループワークの役割分担の必要性やテーマに沿った企画・撮影・編集の技能を修得する。またSNSを活用した情報発信の方法を身につける。	2 ① ②	132			○		○		○	
25	○		映像企画	映像制作においてクライアントへのヒアリング手法やコンセプトメイキングを学び、適切な演出とメッセージ表現を養う。また、個々の力量や社会との接点を制作を通して理解する。	2 ① ②	60			○		○		○	
26	○		インタラクティブデザイン	ユーザーとのレスポンスが重要になったSNSにおいて、コミュニケーション手段となっているインタラクティブコンテンツの制作能力を養う。	2 ① ②	60			○		○		○	
27	○		映像編集	AfterEffects等の映像編集ソフトで映像を効果的に演出するモーション・エフェクトを自作できる発想力・技術力を身につける。	2 ① ②	36			○		○		○	
28		○	Webデザイン	PHPフレームワークのWordPressを使用し、ウェブサイトを実制作しながらSEO、ウェブデザイン、コーディング（HTML、CSS、PHP）の技術修得を目指す。	2 ① ②	144			○		○		○	
29	○		卒業制作	これまでのメディアデザイン分野等の視覚伝達デザイン領域における歴史的背景や流れが理解でき、それを基に、これからあるべきメディア表現を思索し、自身の考えとして論ずることができる。現代もしくは未来社会に対して問題解決のための具体的な提案ができる能力を習得する。	2 ③	312			○		○		○	
合計					29 科目	1920	単位時間							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：・出席率が80%以上であること		1学年の学期区分	3期
履修方法：学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により		1学期の授業期間	12週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																																													
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																																													
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																																													
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																																																												
文化・教養	文化教養専門課程	メディア映像デザイン科 (映像・アニメーション専攻コース)				平成27年文部科学省告示 第14号	-																																																												
学科の目的	映像、CG、アニメ、Web、マルチメディア等のデザイン分野において、情報社会に適応する幅広い知識と実践に必要な技術を持った人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。																																																																		
認定年月日	平成28年2月19日																																																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																																												
	2年	1920	224	1692	0	0	0																																																												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																																													
50人		36人の内数	0人	5人	10人	15人																																																													
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:																																																													
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日				卒業・進級条件	卒業要件:																																																													
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。				課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																																													
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 映像制作会社、CG制作会社、Web制作会社、広告制作会社、写真館 ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている <table border="1"> <tr><td>■卒業生数</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>100</td><td>%</td></tr> </table>				■卒業生数	9	人	■就職希望者数	9	人	■就職者数	9	人	■就職率	100	%	■卒業者に占める就職者の割合				100	%	主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>マルチメディア検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>色彩検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>レタリング技能検定</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	情報検定	③	9人	8人	マルチメディア検定	③	9人	9人	色彩検定	③	9人	7人	レタリング技能検定	③	9人	4人																				
	■卒業生数	9	人																																																																
■就職希望者数	9	人																																																																	
■就職者数	9	人																																																																	
■就職率	100	%																																																																	
■卒業者に占める就職者の割合																																																																			
	100	%																																																																	
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																																																
情報検定	③	9人	8人																																																																
マルチメディア検定	③	9人	9人																																																																
色彩検定	③	9人	7人																																																																
レタリング技能検定	③	9人	4人																																																																
(令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																																																															
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 3% 令和3年4月1日時点において、在学者36名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者35名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談(クラス担任等)、保護者との協力(保護者説明会、保護者面談)、入学時オリエンテーション、コンペ・イベント等の充実等																																																																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 1人																																																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0 評価結果を掲載したホームページURL: 0																																																																		
当該学科のホームページURL	https://www.kumamoto-design.ac.jp																																																																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
篠原 たかこ	公益財団法人 画像情報教育振興協会 教育事業部 事業部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
松原 庸児	株式会社 熊本放送 総務局人事部 部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
児玉 守	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務主任	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	
村田 実	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月3日 10:00～11:00

第2回 令和4年3月1日 16:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

<令和3年8月3日 第1回教育課程編成委員会>

(意見)ゲームCGの求人票が多く、学生の希望とのミスマッチが起こっているのではないかと。

(取組)引き続き就職担当と連携しながら学生のニーズに合った求人開拓を強化していくことにした。

(意見)感染対策は大変だと思うが、学生さんが楽しめるようなイベントを条件付きで実施してはどうか。

(取組)スポーツレクレーションや卒業制作展などを実施した。

<令和4年3月1日 第2回教育課程編成委員会>

(意見)CG習熟度の差を解決する具体的な策はなにか。

(取組)CG概論の講義を取り入れ、知識と演習を連動した授業を実施することにした。

(意見)コロナ禍で求人数が減っており、多方面の就職先を考慮して活動をするよいか。

(取組)業界求人ほかに他業種の求人開拓を進めており、インハウスデザイン職でも内定を頂いている。就活が長期化する学生に進路相談やメンタルケアをしながらサポートを続けた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 映像やコンテンツ制作において媒体や用途に合った情報を分析し伝達するための表現力を習得する。企業と連携し実務的な一連の工程に沿ってワークショップや共同制作を行い、知識・技術の向上や業界動向の理解を目的に授業を展開することを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
メディアデザイン	メディア表現を多面的に考察し、映像コンテンツの利用価値を見出す。メディアの特性を活かした情報伝達の手段や映像を活用する知識や手法を学び、送り手と受け手が相互に作用するようなサービスやコンテンツを制作する。また、編集ソフトの技術を養い、実務的な一連の工程をグループワークで演習を行う。	株式会社サンナナ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質（知識、技術、技能）が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による校内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: CGWORLD デザインビズカンファレンス
 期間: 令和3年7月15日(金)
 内容: ゲームや映像などエンターテイメントの領域だけでなく建築、製造、アパレルなど業界をリードする企業より、新たな取り組みや、技術、考えなどデザインビズの今を学び、これからを考えるカンファレンス。
 連携企業等: 株式会社ボンデジタル
 対象: 専門学校教職員等

研修名: Adobe Education Forum 2022
 期間: 2021/8/10(火)
 内容: 新しい価値を創造する力を育む大学・専門学校教育。時代の未来を切り拓き、まだ世の中にない価値を創造する力を育む教育について考えるフォーラム
 連携企業等: アドビ株式会社
 対象: 専門学校教職員等

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 主体的・対話的で深い学びを実現する Google 式10X 授業デザイン研修
 期間: 令和3年8月19日(木)13時～15時
 内容: Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー
 連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
 対象: 専門学校教職員等

研修名: 職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』
 期間: 令和4年3月2日(水)13時30～15時30分
 内容: 職業教育のマネジメントのポイントを先事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー
 連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
 対象: 専門学校教職員等

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	CGWORLD JAM ONLINE 2022	連携企業等:	株式会社ボーンデジタル
期間:	令和4年5月27日・28日	対象:	専門学校教職員等
内容:	注目作のメイキングやクリエイターによる技術解説、就職情報などのCG・映像に特化したセミナー		
研修名:	Adobe Education Forum 2022 未来をつくる教育のDX	連携企業等:	アドビ株式会社
期間:	令和4年8月2日～4日	対象:	専門学校教職員等
内容:	教育現場のデジタルツールの変化とともにすべての子どもたちの可能性を最大限にひきだし、新しい価値を創造する力を育む教育について考えるオンラインフォーラム		
研修名:	CEDEC+KYUSHU 2022	連携企業等:	CEDEC+KYUSHU 2022 実行委員会
期間:	令和4年11月12日(土)	対象:	専門学校教職員等
内容:	デジタルエンターテインメント技術の講演・展示ブース		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。		
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等:	デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時～26日(金)13時	対象:	専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修		
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等:	株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時～17時	対象:	専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程メディア映像デザイン科 (映像・アニメーション専攻コース))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			社会研究 I	基本的な履歴書作成や添え状、お礼状の書き方、就職活動を行なう上で必要とされるマナーや礼儀作法を修得し、就職活動に向けて前向きに取り組む力を身に付ける。	1 ② ③	20		○			○		○		
2	○			ビジネスマナー	基本的なビジネスマナーを学び、日々のコミュニケーションを向上し、社会人として円滑な人間関係を築くための基礎力を身に付ける。	1 ①	24		○			○		○		
3	○			アイデア発想基礎	「デザイン発想力の向上」「自分が進むべきデザインの方向性発見」のきっかけになるようなクリエイティブ作品やエピソードを各方面から多数紹介。	1 通	32		○			○		○		
4	○			総合デザイン論	建築、インテリア、芸術、グラフィック、ファッション、インターネット、ディレクションなど各デザイン分野の専門知識を広く理解し、視野の広い発想力を養う。	1 ① ②	24		○			○		○		
5	○			メディア概論	コンテンツ表現の手法や情報伝達の手段を学び、日常生活に浸透するデジタル技術やメディアの現状と社会との関わりについて理解を深める。マルチメディアに関する用語や知識を学び、デジタル制作に必要な基礎知識を身につける。	1 ① ②	36		○			○		○		
6	○			CG概論	CGによる映像表現を行うために必要な基礎知識の理解と、3次元CGや映像制作において必要となる関連知識を修得する。	1 ③	16		○			○		○		

23	○		メディアデザイン	メディアの特性を活かした情報伝達の手段やコンテンツを活用する知識やAfter EffectsやPremiereの編集技術、出力技法を修得する。	2 ①	36			○		○			○	○	
24	○		映像演習	映像制作においてグループワークの役割分担の必要性やテーマに沿った企画・撮影・編集の技能を修得する。またSNSを活用した情報発信の方法を身につける。	2 ① ②	132			○		○			○		
25	○		映像企画	映像制作においてクライアントへのヒアリング手法やコンセプトメイキングを学び、適切な演出とメッセージ表現を養う。また、個々の力量や社会との接点を制作を通して理解する。	2 ① ②	60			○		○			○		
26	○		インタラクティブデザイン	ユーザーとのレスポンスが重要になったSNSにおいて、コミュニケーション手段となっているインタラクティブコンテンツの制作能力を養う。	2 ① ②	60			○		○			○		
27	○		映像編集	AfterEffects等の映像編集ソフトで映像を効果的に演出するモーション・エフェクトを自作できる発想力・技術力を身につける。	2 ① ②	36			○		○			○		
28	○		3DCG演習	3DCG制作ソフトでCG作品を作成する技術やアニメーションのテクニックを学ぶ。他のソフトと連携したモデリングやマッピング素材の作成・ライティング・パーティクルなどの操作からレンダリングまでの一連の制作技能を習得する。	2 ① ②	144			○		○			○		
29	○		卒業制作	これまでのメディアデザイン分野等の視覚伝達デザイン領域における歴史的背景や流れが理解でき、それを基に、これからあるべきメディア表現を思索し、自身の考えとして論ずることができる。現代もしくは未来社会に対して問題解決のための具体的な提案ができる能力を習得する。	2 ③	312			○		○			○		
合計					29	科目	1920					単位時間				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：・出席率が80%以上であること		1学年の学期区分	3期
履修方法：学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により		1学期の授業期間	12週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																																																			
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																																																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																																																			
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																																																			
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																																																																	
工業		工業専門課程		建築・インテリアデザイン 科 (建築デザイン専攻コース)		平成22年文部科学省告示 第152号		-																																																																	
学科の目的		建築・インテリアデザイン・家具等の、空間デザイン分野における幅広い知識と実践に必要な技術を有する人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。																																																																							
認定年月日		平成27年2月17日																																																																							
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技																																																													
2 年		昼間		1920		672		1248		0		0																																																													
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数		時間																																																													
80人		68人の内数		0人		4人		11人		15人																																																															
学期制度		■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:試験、課題、平常点、出席点																																																																	
長期休み		■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日				卒業・進級条件		卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																																																	
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。				課外活動		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																																																	
就職等の状況※2		■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 建築設計事務所、工務店、ハウスメーカー、家具・インテリア雑貨販売店等 ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。 <table border="1"> <tr><td>■卒業生数</td><td>12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数</td><td>12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数</td><td>12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>100</td><td>%</td></tr> </table> ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)				■卒業生数	12	人	■就職希望者数	12	人	■就職者数	12	人	■就職率	100	%	■卒業者に占める就職者の割合				100	%	主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩検定2級</td> <td>③</td> <td>15</td> <td>13</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するもの記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) 0				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	色彩検定2級	③	15	13																																				
■卒業生数	12	人																																																																							
■就職希望者数	12	人																																																																							
■就職者数	12	人																																																																							
■就職率	100	%																																																																							
■卒業者に占める就職者の割合																																																																									
	100	%																																																																							
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																																																						
色彩検定2級	③	15	13																																																																						
中途退学の現状		■中途退学者 4 名 令和3年4月1日時点において、在学者68名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者64名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・担任による個別面談、並びに保護者を交えた面談等				■中退率 6 %																																																																			
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																																																							
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0 評価結果を掲載したホームページURL 0																																																																							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。
教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会 監事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
田中 誠一	株式会社コムハウス 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
堀川 未樹	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
中田 有紀	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月27日 14:00～15:00

第2回 令和4年3月16日 10:30～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【第1回】

(意見)コロナ禍でのリモート授業の増加に伴い、在宅において尚、学生の学習意欲が高まるような工夫をして頂きたい。
(取組)各教室でリモート対応できるようカメラ等の環境整備を行った。放課後の時間などもリモート相談を受け付け、個別リモートによる学生の積極性の向上を図った。

(意見)業界全体で施工管理に従事する人材の需要が特に増えていることから、これまで以上に業界や学生の希望に更に寄り添った就職指導が不可欠と考えられる。専攻コースの内容や授業等の工夫をして頂きたい。
(取組)施工管理志望の学生が増えている動向に伴い、施工管理特化の専攻コースを新たに創設することとし、具体的なカリキュラムの編成を図った。

【第2回】

(意見)施工管理に特化した建築エンジニアリング専攻の新設に伴い、実践的に学べる学習内容となるよう工夫して頂きたい。

(取組)施工管理の実務でも汎用されるCADの導入を検討し、座学や実習を通して一連の実践的内容を行えるようにカリキュラムを編成、強化した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 空間デザインに関連する業界における実践的な技術や知識を有する人材を育てることを目的とし、授業内容について企業側講師と担当教員が十分な検討を行ったうえで、できる限り企業・業界の現場における実務プロセスやノウハウを重視した授業展開を行うことを基本方針とする。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後は企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
空間デザイン発想演習	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達はブレインストーミング法、KJ法の実習を通して修得する。これらの発想手法を活用し、生活面に潜む多くの課題解決にアイデアを拡大。斬新な解決手法をビジュアルにまとめ、第3者にプレゼンする。	株式会社TK+
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	Vectorworks教育シンポジウム2021 Web版	連携企業等: エーアンドエー株式会社
期間:	2021年9月10日(金)17:30~19:00	対象: 建築・インテリア業界
内容:	建築系CADの表現手法、および全国より選抜された学生による建築設計・計画の研究成果の発表・講評	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学び」を実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「〜ライフスタイルに寄り添う空間づくり〜暮らしを楽しむインテリアコーディネート」	連携企業等: SINCOL
期間:	令和4年6月24日(金)15時~16時	対象: 建築・インテリア業界
内容:	開発担当者による住宅向け見本帳カタログコンセプトの紹介、様々なメディアで活躍するインテリアコーディネーターが住空間の提案を行う。最新の内装材やインテリアコーディネート提案の手掛かりを知る。	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(工業専門課程建築・インテリアデザイン 科 (建築デザイン専攻コース))																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			設計製図演習	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。	1 ① ②	108		△	○		○		○		
2	○			建築計画 I	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。	1 通	32		○			○		○		
3	○			空間意匠論	大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所で意匠設計に携わった教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解答を持つものではなく、個々の持つ価値観・背景等が主観を構成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリア空間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成しうる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。	1 通	32		○			○		○		
4	○			建築デザイン史	欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした建築史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶことで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得する。	1 通	32		○			○		○		

5	○		構造力学 I	力学の概念、力のつりあい、力とモーメント、断面の性質などの基本的事項の習熟に重点を置き、建築物などにどのような力がかかっているのかを学習する。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に等について教科書に沿って解説し、基礎的な問題での演習を交えることで理解を深める。	1 通	32		○			○						○	
6	○		一般構造	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験談を交えながら、3つの主要な構造（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造）の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。	1 ②	36		○	△		○						○	○
7	○		建築材料学	建築には長い歴史があり、いろいろな用途があり、様々な取り決めがある。その建築がどういう歴史をたどって発展してきたのか、また材料にはどんな特徴があるのか、どう使用されるのか、さらに環境問題など、人々の生活の身近にある材料の知識を建築設計、コーディネートの実務経験から解説し施工の面からも理解を深める。	1 通	32		○	△		○						○	
8	○		施工	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、基礎的知識や概要等を解説する。具体的には、施工計画の工程表作成方法や、材料管理・品質管理の考え方、各工事ごとの要点や種類・規定の詳細を図式やイラストを用いて理解を深める。さらに、コストの検討や測量方法、契約や仕様書の概要も解説し、建築工事全体の流れも講義する。	1 ②	36		○			○						○	
9	○		CAD演習A	建築設計業務においてCAD製図に携わった経験を持つ教員が、コンピュータの基本操作から、2次元汎用CAD(jwcad)を利用した実務的な建築製図に必要な知識や技術を指導する。	1 ① ②	108		○			○						○	

10	○			パースペクティブ演習	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を修得する。	1 ②	36		△	○	○	○					
11	○			建築造形演習	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。	1 ② ③	84			○	○	○					
12	○			3Dモデリング演習	VectorWorksの基本操作を学び、3Dモデルの描画法、視点のシュミレーション等を修得する。椅子、本棚、ソファといった家具のモデリングを通じ、テクスチャの貼り方、レンダリング法など3Dモデルの技術を修得する。	1 ③	24			○	○	○					
13	○			色彩学	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留まらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。	1 ①	12		○	○	○						
14	○			色彩学演習	色彩学で修得した配色技法等を実践的な課題制作を通じ体験的に学ぶ。課題としてはインテリアパースやエクステリア、建築外観パース等に色彩計画をするなど、現場で必要とされる色彩についての知識や配色技法、また色彩感覚を養うものとする。	1 ①	24			○	○	○					

15	○		グラフィック演習	<p>広告・看板等のグラフィックデザインの実務経験のある講師により、DTP(デスクトップパブリッシング)ソフトであるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作でのプレゼン用ボードのレイアウトテクニックを修得します。</p>	1 ③	24			○		○		○					
16	○		デッサン	<p>実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。</p>	1 通	96			○		○							○
17	○		コーディネート演習Ⅰ	<p>住宅メーカーでコーディネーターとして勤務経験を有する教員が、インテリアコーディネート基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。</p>	1 ①	36			△	○		○		○				
18	○		家具デザイン演習	<p>大川産地の家具デザイン及び制作指導の経験を有する教員が住空間に内包されるところの構成要素(インテリア・エレメント)の計画・設計をする領域の家具デザインにおける基本的な形態や材料・構造・人間と道具・空間とのかかわり方、人間の行為行動のサポートのために生まれてきた家具を「より快適に」「楽に」「無駄なく」などの要素を人間工学などで考察し、インテリアの基礎知識を基盤とし、デザインを現実化するための製図やパースの表現方法をまなび、体に優しいデザインについて考える方法論や演習を行う。</p>	2 ②	36			△	○		○						○
19	○		社会研究Ⅰ	<p>働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方や就職活動の具体的方法を学ぶ。</p>	1 ① ③	20			○			○		○				

31	○		空間デザイン 発想演習	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達はブレインストーミング法、KJ法の実習を通して修得する。これらの発想手法を活用し、生活面に潜む多くの課題解決にアイデアを拡大。斬新な解決手法をビジュアルにまとめ、第3者にプレゼンする。	2 ①	36			○		○				○	○	
32	○		ビジネススキル 演習	ビジネス用アプリケーションソフトを扱う力は、現代では標準スキルとして求められる。本演習では、Microsoft officeのアプリケーションであるWord、Excel、PowerPointについての基本操作について解説した後、実務において必要な応用スキルを身につけるための実践的演習を行う。	2 ③	36			○		○		○				
33	○		建築設計B	建築設計業務の経験を持つ教員の指導により、比較的中規模集合住宅及び公共施設について各々課題を設定し演習を行う。建築計画が実際の設計でどのような役割を持っているのか実感し、また建築が地域や環境とどう結びついていかなければならないのかを考え、建築設計を行う者に必要な総合的な視野・知識・能力を養成する。	2 ① ②	108			○		○		○				
34	○		建築計画Ⅱ	建築計画学において策定された要点の整理を行い、与えられた課題敷地に設定された用途の建築を設計計画する演習を行う。1ターム3回で構成し、4課題(木造住居系、RC造住居系、公共建築系、商業建築系)を課す。	2 ①	36			△	○		○		○			
35	○		建築環境工学	建築設計事務所で環境工学の観点から設計に携わっている教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。建築設計を進める際に必要な環境工学の要素である音・光・空気・温熱・水環境とそこで生活活動する人間の関りについて基礎概念を理解する。	2 ②	36			○		○				○		
36	○		構造力学Ⅱ	構造力学Ⅰで学習した基礎的内容を踏まえ、さらに発展的な演習問題に取り組み建築物の構造計算の手順を学習する。具体的には、基礎的問題の確認を行いながら、それらを組み合わせて解かなければならない不静定構造物の応力の求め方、さらに建築物の二次設計が必要な場合に要求される必要保有水平耐力の係数の理解、塔状比を確認して建築物の転倒の検討を行う計算の流れなどを学習する。	2 ②	36			○		○				○		

37	○		木構造計画演習	木構造を専門とする現役建築士が、設計業務に携わった実例プランを用いて、軸組配置の検討や接合金物選定等の実践的な演習の指導を行う。	2 ①	36			○		○			○
38	○		積算	住宅メーカーで積算業務に携わった経験を持つ教員が、建築数量積算基準に基づき設計例を用いて材料の算出方法及び値入れ業務の内容を講義する。具体的には、電卓を使用し、各工種ごとに設計図書を確認しながら材料拾い出し作業の手順を解説する。また、工種ごとの単位や単価の違いを理解し、利益算出方法や実行予算書といった実務的な内容も併せて学習する。	2 ②	36			○	△		○		○
39	○		卒業制作	建築設計、施工及びインテリアコーディネーターなど空間デザイン分野の実務経験を持つ教員により学生各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 通	336			○			○		○
合計					39	科目			1920					単位時間

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作又は卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1学年の学期区分	3期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1学期の授業期間	11週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																											
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																											
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																											
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																																										
工業	工業専門課程	建築・インテリアデザイン 科 (商業空間デザイン専攻コース)				平成22年文部科学省告示 第152号	-																																										
学科の目的	建築・インテリアデザイン・家具等の、空間デザイン分野における幅広い知識と実践に必要な技術を有する人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。																																																
認定年月日	平成27年2月17日																																																
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要 な総授業時数又は総単 位数		講義	演習	実習	実験	実技																																									
	2 年	昼間	1920	564	1356	0	0	0																																									
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																										
80人		68人の内数		0人	4人	11人	15人																																										
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:試験、課題、平常点、出席点																																											
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏 季:8月1日～8月31日 ■冬 季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日				卒業・進級 条件	卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。				課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																											
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 建築設計事務所、工務店、ハウスメーカー、家具・インテリア 雑貨販売店等				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																											
	■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、 就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩検定2級</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	色彩検定2級	③	9	7																																
	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																													
	色彩検定2級	③	9	7																																													
■卒業者数 13 人 ■就職希望者数 12 人 ■就職者数 12 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合				■その他 ・進学者数: 0人																																													
(令和 3 年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する 記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																													
中途退学 の現状	■中途退学者 4 名 ■中退率 6 % 令和3年4月1日時点において、在学者68名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者64名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・担任による個別面談、並びに保護者を交えた面談等																																																
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																																
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0 評価結果を掲載した ホームページURL 0																																																

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会 監事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
田中 誠一	株式会社コムハウス 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
堀川 未樹	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
中田 有紀	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月27日 14:00～15:00

第2回 令和4年3月16日 10:30～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【第1回】

(意見)コロナ渦でのリモート授業の増加に伴い、在宅において尚、学生の学習意欲が高まるような工夫をして頂きたい。

(取組)各教室でリモート対応できるようカメラ等の環境整備を行った。放課後の時間などリモート相談を受け付け、個別リモートによる学生の積極性の向上を図った。

(意見)業界全体で施工管理に従事する人材の需要が特に増えていることから、これまで以上に業界や学生の希望に更に寄り添った就職指導が不可欠と考えられる。専攻コースの内容や授業等の工夫をして頂きたい。

(取組)施工管理志望の学生が増えている動向に伴い、施工管理特化の専攻コースを新たに創設することとし、具体的なカリキュラムの編成を図った。

【第2回】

(意見)施工管理に特化した建築エンジニアリング専攻の新設に伴い、実践的に学べる学習内容となるよう工夫して頂きたい。

(取組)施工管理の実務でも汎用されるCADの導入を検討し、座学や実習を通して一連の実践的内容を行えるようカリキュラムを編成、強化した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 空間デザインに関連する業界における実践的な技術や知識を有する人材を育てることを目的とし、授業内容について企業側講師と担当教員が十分な検討を行ったうえで、できうる限り企業・業界の現場における実務プロセスやノウハウを重視した授業展開を行うことを基本方針とする。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後は企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
空間デザイン発想演習	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達はブレインストーミング法、KJ法の実習を通して修得する。これらの発想手法を活用し、生活面に潜む多くの課題解決にアイデアを拡大。斬新な解決手法をビジュアルにまとめ、第三者にプレゼンする。	株式会社TK+
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	Vectorworks教育シンポジウム2021 Web版	連携企業等: エーアンドエー株式会社
期間:	2021年9月10日(金)17:30~19:00	対象: 建築・インテリア業界
内容:	建築系CADの表現手法、および全国より選抜された学生による建築設計・計画の研究成果の発表・講評	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学びを実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先行事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「～ライフスタイルに寄り添う空間づくり～暮らしを楽しむインテリアコーディネーター」	連携企業等: SINCOL
期間:	令和4年6月24日(金)15時~16時	対象: 建築・インテリア業界
内容:	開発担当者による住宅向け見本帳カタログコンセプトの紹介、様々なメディアで活躍するインテリアコーディネーターが住空間の提案を行う。最新の内装材やインテリアコーディネーター提案の手掛かりを知る。	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2)各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3)教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6)学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7)学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8)学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9)学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(工業専門課程建築・インテリアデザイン 科 (商業空間デザイン専攻コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		設計製図演習	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。	1 ① ②	108		△	○		○		○		
2	○		建築計画 I	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。	1 通	32		○			○		○		
3	○		空間意匠論	大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所で意匠設計に携わった教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解答を持つものではなく、個々の持つ価値観・背景等が主観を構成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリア空間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成しうる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。	1 通	32		○			○		○		
4	○		建築デザイン史	欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした建築史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶことで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得する。	1 通	32		○			○		○		

10	○			パースペクティブ演習	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を修得する。	1 ②	36		△	○	○	○						
11	○			建築造形演習	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。	1 ② ③	84			○	○	○						
12	○			3Dモデリング演習	VectorWorksの基本操作を学び、3Dモデルの描画法、視点のシュミレーション等を修得する。椅子、本棚、ソファといった家具のモデリングを通じ、テクスチャの貼り方、レンダリング法など3Dモデルの技術を修得する。	1 ③	24			○	○	○						
13	○			色彩学	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留まらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。	1 ①	12			○	○	○						
14	○			色彩学演習	色彩学で修得した配色技法等を実践的な課題制作を通じ体験的に学ぶ。課題としてはインテリアパースやエクステリア、建築外観パース等に色彩計画をするなど、現場で必要とされる色彩についての知識や配色技法、また色彩感覚を養うものとする。	1 ①	24			○	○	○						

15	○		グラフィック演習	<p>広告・看板等のグラフィックデザインの実務経験のある講師により、DTP(デスクトップパブリッシング)ソフトであるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作でのプレゼン用ボードのレイアウトテクニックを修得します。</p>	1 ③	24			○		○		○					
16	○		デッサン	<p>実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。</p>	1 通	96			○		○							○
17	○		コーディネート演習Ⅰ	<p>住宅メーカーでコーディネーターとして勤務経験を有する教員が、インテリアコーディネート基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。</p>	1 ①	36			△		○		○		○			
18	○		家具デザイン演習	<p>大川産地の家具デザイン及び制作指導の経験を有する教員が住空間に内包されるところの構成要素(インテリア・エレメント)の計画・設計をする領域の家具デザインにおける基本的な形態や材料・構造・人間と道具・空間とのかかわり方、人間の行為行動のサポートのために生まれてきた家具を「より快適に」「楽に」「無駄なく」などの要素を人間工学などで考察し、インテリアの基礎知識を基盤とし、デザインを現実化するための製図やパースの表現方法をまなび、体に優しいデザインについて考える方法論や演習を行う。</p>	2 ②	36			△		○		○					○
19	○		社会研究Ⅰ	<p>働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方や就職活動の具体的方法を学ぶ。</p>	1 ① ③	20			○				○		○			

35	○		コーディネーター演習Ⅲ	環境や技術など急速に変化する社会を背景にインテリアコーディネーターの役割は重要になっています。建築設計、コーディネーターの実務経験から多様な生活空間のアドバイザーとしての必要な要素、知識を教科書にそい、現場経験を講義する。	2 ① ②	144	○	△	○	○
36	○		卒業制作	建築設計、施工及びインテリアコーディネーターなど空間デザイン分野の実務経験を持つ教員により学生各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 通	336	○	○	○	
合計					38	科目	1920			単位時間

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1学年の学期区分	3期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1学期の授業期間	11週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																											
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																											
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																											
分野	認定課程名	認定学科名				専門士	高度専門士																																										
工業	工業専門課程	建築・インテリアデザイン 科 (インテリアコーディネート専攻コース)				平成22年文部科学省告示 第152号	-																																										
学科の目的		建築・インテリアデザイン・家具等の、空間デザイン分野における幅広い知識と実践に必要な技術と実践に必要となる技術と実践に必要となる人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。																																															
認定年月日		平成27年2月17日																																															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																																									
	2 年	昼間	1920	564	1356	0	0	0																																									
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																										
80人		68人の内数		0人	4人	11人	15人																																										
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:試験、課題、平常点、出席点																																											
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日				卒業・進級条件	卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。				課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																											
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 建築設計事務所、工務店、ハウスメーカー、家具・インテリア雑貨販売店等				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																											
	■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インテリアコーディネーター</td> <td>①</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>色彩検定2級</td> <td>③</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	インテリアコーディネーター	①	3	1	色彩検定2級	③	9	7																												
	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																													
	インテリアコーディネーター	①	3	1																																													
色彩検定2級	③	9	7																																														
■卒業者数 5 人 ■就職希望者数 5 人 ■就職者数 5 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合				(令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																																													
■その他 ・進学者数: 0人				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するもの記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 0																																													
中途退学の現状	■中途退学者 4名 令和3年4月1日時点において、在学者68名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者64名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・担任による個別面談、並びに保護者を交えた面談等				■中退率 6%																																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																																
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0				評価結果を掲載したホームページURL 0																																												

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会 監事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
田中 誠一	株式会社コムハウス 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
堀川 未樹	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
中田 有紀	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月27日 14:00～15:00

第2回 令和4年3月16日 10:30～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【第1回】

(意見)コロナ禍でのリモート授業の増加に伴い、在宅において尚、学生の学習意欲が高まるような工夫をして頂きたい。

(取組)各教室でリモート対応できるようカメラ等の環境整備を行った。放課後の時間などもリモート相談を受け付け、個別リモートによる学生の積極性の向上を図った。

(意見)業界全体で施工管理に従事する人材の需要が特に増えていることから、これまで以上に業界や学生の希望に更に寄り添った就職指導が不可欠と考えられる。専攻コースの内容や授業等の工夫をして頂きたい。

(取組)施工管理志望の学生が増えている動向に伴い、施工管理特化の専攻コースを新たに創設することとし、具体的なカリキュラムの編成を図った。

【第2回】

(意見)施工管理に特化した建築エンジニアリング専攻の新設に伴い、実践的に学べる学習内容となるよう工夫して頂きたい。

(取組)施工管理の実務でも汎用されるCADの導入を検討し、座学や実習を通して一連の実践的内容を行えるようにカリキュラムを編成、強化した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 空間デザインに関連する業界における実践的な技術や知識を有する人材を育てることを目的とし、授業内容について企業側講師と担当教員が十分な検討を行ったうえで、できる限り企業・業界の現場における実務プロセスやノウハウを重視した授業展開を行うことを基本方針とする。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後は企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
空間デザイン発想演習	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達はブレインストーミング法、KJ法の実習を通して修得する。これらの発想手法を活用し、生活面に潜む多くの課題解決にアイデアを拡大。斬新な解決手法をビジュアルにまとめ、第3者にプレゼンする。	株式会社TK+
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	Vectorworks教育シンポジウム2021 Web版	連携企業等: エーアンドエー株式会社
期間:	2021年9月10日(金)17:30~19:00	対象: 建築・インテリア業界
内容:	建築系CADの表現手法、および全国より選抜された学生による建築設計・計画の研究成果の発表・講評	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学び」を実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「〜ライフスタイルに寄り添う空間づくり〜暮らしを楽しむインテリアコーディネート」	連携企業等: SINCOL
期間:	令和4年6月24日(金)15時~16時	対象: 建築・インテリア業界
内容:	開発担当者による住宅向け見本帳カタログコンセプトの紹介、様々なメディアで活躍するインテリアコーディネーターが住空間の提案を行う。最新の内装材やインテリアコーディネート提案の手掛かりを知る。	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(工業専門課程建築・インテリアデザイン 科 (インテリアコーディネート専攻コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			設計製図演習	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。	1 ① ②	108		△	○		○	○		
2	○			建築計画 I	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。	1 通	32		○			○	○		
3	○			空間意匠論	大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所で意匠設計に携わった教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解答を持つものではなく、個々の持つ価値観・背景等が主観を構成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリア空間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成しうる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。	1 通	32		○			○		○	
4	○			建築デザイン史	欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした建築史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶことで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得する。	1 通	32		○			○		○	

5	○		構造力学 I	力学の概念、力のつりあい、力とモーメント、断面の性質などの基本的事項の習熟に重点を置き、建築物などにどのような力がかかっているのかを学習する。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に等について教科書に沿って解説し、基礎的な問題での演習を交えることで理解を深める。	1 通	32		○		○		○							
6	○		一般構造	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験談を交えながら、3つの主要な構造（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造）の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。	1 ②	36		○	△		○				○			○	○
7	○		建築材料学	建築には長い歴史があり、いろいろな用途があり、様々な取り決めがある。その建築がどういう歴史をたどって発展してきたのか、また材料にはどんな特徴があるのか、どう使用されるのか、さらに環境問題など、人々の生活の身近にある材料の知識を建築設計、コーディネートの実務経験から解説し施工の面からも理解を深める。	1 通	32		○	△		○								○
8	○		施工	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、基礎的知識や概要等を解説する。具体的には、施工計画の工程表作成方法や、材料管理・品質管理の考え方、各工事ごとの要点や種類・規定の詳細を図式やイラストを用いて理解を深める。さらに、コストの検討や測量方法、契約や仕様書の概要も解説し、建築工事全体の流れも講義する。	1 ②	36		○			○								○
9	○		CAD演習 A	建築設計業務においてCAD製図に携わった経験を持つ教員が、コンピュータの基本操作から、2次元汎用CAD（jwcad）を利用した実務的な建築製図に必要な知識や技術を指導する。	1 ① ②	108					○				○				○

10	○			パースペクティブ演習	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を修得する。	1 ②	36			△	○		○					○
11	○			建築造形演習	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。	1 ② ③	84				○		○					○
12	○			3Dモデリング演習	VectorWorksの基本操作を学び、3Dモデルの描画法、視点のシュミレーション等を修得する。 椅子、本棚、ソファといった家具のモデリングを通じ、テクスチャの貼り方、レンダリング法など3Dモデルの技術を修得する。	1 ③	24				○		○					○
13	○			色彩学	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留まらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。	1 ①	12			○			○					○
14	○			色彩学演習	色彩学で修得した配色技法等を実践的な課題制作を通じ体験的に学ぶ。課題としてはインテリアパースやエクステリア、建築外観パース等に色彩計画をするなど、現場で必要とされる色彩についての知識や配色技法、また色彩感覚を養うものとする。	1 ①	24				○		○					○

15	○		グラフィック演習	<p>広告・看板等のグラフィックデザインの実務経験のある講師により、DTP(デスクトップパブリッシング)ソフトであるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作でのプレゼン用ボードのレイアウトテクニックを修得します。</p>	1 ③	24			○	○	○						
16	○		デッサン	<p>実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。</p>	1 通	96			○	○	○						
17	○		コーディネート演習Ⅰ	<p>住宅メーカーでコーディネーターとして勤務経験を有する教員が、インテリアコーディネート基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。</p>	1 ①	36		△	○	○	○						
18	○		家具デザイン演習	<p>大川産地の家具デザイン及び制作指導の経験を有する教員が住空間に内包されるものの構成要素(インテリア・エレメント)の計画・設計をする領域の家具デザインにおける基本的な形態や材料・構造・人間と道具・空間とのかかわり方、人間の行為行動のサポートのために生まれてきた家具を「より快適に」「楽に」「無駄なく」などの要素を人間工学などで考察し、インテリアの基礎知識を基盤とし、デザインを現実化するための製図やパースの表現方法をまなび、体に優しいデザインについて考える方法論や演習を行う。</p>	2 ②	36		△	○	○	○						
19	○		社会研究Ⅰ	<p>働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職活動の具体的方法を学ぶ。</p>	1 ① ③	20			○	○	○						

20	○		総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 ① ②	24		○			○								○
21	○		ビジネスマナー	百貨店において、接客サービスに従事し、接客指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感もてるマナーやコミュニケーション力を修得する。	1 ①	24		○			○								○
22	○		住宅計画論	住宅設計業務に携わった経験を持つ教員が、建築計画Ⅰで履修した基本的な居住空間の計画を踏まえ、生活をより豊かにするために多様化する計画の手法や寸法・構造について詳説する。住まいの歴史やバリアフリーへの対応の仕方、建築基準法の規定や建築にかかわる費用などについても体系的に解説・指導する。	1 ③	24		○			○								○
23	○		福祉住環境計画	超高齢社会の日本では、福祉住環境整備の需要はますます高まっている。高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するために、建築の知識に加え、介護、福祉、医療について、総合的に解説する。その人らしい暮らしの回復・実現・維持をサポートするための住環境について、様々な視点から解説し、福祉用具等の活用についても詳説する。	1 ②	36		○			○								○
24	○		住宅設計A	住宅メーカーで設計業務の経験を有する教員が、住宅を設計課題とし演習を行う。具体的には延床25㎡の狭小平屋住宅の設計を課題とし、「住宅」という既成概念に対して様々な問題提起を行いながらエスキスを重ね空間構想力を養い、必要な各設計図書の製作を行う。	1 ③	48		○			○								○

25	○		建築設備	設備設計事務所での勤務実績がある者が、その経験を生かし建築設備（給排水・冷暖房・換気・電気・防災）の基本的知識の理解を目標にし、建築物における設備の重要性を説く	2 ①	36			○			○			○
26	○		建築法規	建築基準法は社会情勢の変化等に応じて改正され、複雑化している。建築及び都市の計画、構造環境の全体像を把握するために、建築及び都市に関する法規や建築手法にわたる全般について修得する。	2 ①	24			○			○			○
27	○		CAD演習B	VectorWorksを利用した2次元製図技法及び3Dモデリングの描画法を修得する。視点のシュミレーション等を通じ、体感的に立体把握をするとともに、図面表現やシュミレーションを活用したプレゼンテーションにかかる技術までを目的とする。	2 ① ②	108					○				○
28	○		ディスプレイ演習	公共施設の展示スペースにおいて、設定されたクライアントの要望に沿ったディスプレイの企画立案を行う。授業当初に4~5人のグループを設定し、グループワークとして企画立案を行う。グループごとのプレゼンテーション後、実制作案を1案決定し、クラス全員で制作・設置を行う。	2 ①	36					○				○
29	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 ①	12					○				○

30	○		ビジネス概論	1、経営コンサルタントとしての実務経験のある教員が、企業や店舗において売上・利益を上げる基礎知識を身に着けるために学生に身近な各種業界における収益構造について事例を参考に教える。2、マーケティング（販売促進）の実務経験のある教員が企業の販促活動や広告の手法など、将来、企画・提案のできるデザイナーになるために知っておくべき事項について教える。	2 ①	12		○		○								○	
31	○		空間デザイン 発想演習	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達はブレインストーミング法、KJ法の実習を通して修得する。これらの発想手法を活用し、生活面に潜む多くの課題解決にアイデアを拡大。斬新な解決手法をビジュアルにまとめ、第3者にプレゼンする。	2 ①	36			○		○							○	○
32	○		ビジネススキル 演習	ビジネス用アプリケーションソフトを扱う力は、現代では標準スキルとして求められる。本演習では、Microsoft officeのアプリケーションである Word、Excel、PowerPointについての基本操作について解説した後、実務において必要な応用スキルを身につけるための実践的演習を行う。	2 ③	36			○		○							○	
33	○		住宅設計B	住宅メーカーで設計業務の経験を有する教員が、住宅を設計課題とし演習の指導を行う。具体的には木造二階建住宅設計を主な課題とし、家族構成や敷地条件を設定し基本計画・基本設計から実施設計へと段階を踏みながら設計を進め、最終的にはインテリアコーディネーションと規定の家具設計までを含めた実施設計図書の作成を行う。また、RCマンションの住宅改装や住宅LDKのリフォームの課題も取り組み、設定した躯体内を変更計画・設計する要領も学習する。	2 ① ②	108			○		○							○	
34	○		コーディネーター 演習Ⅱ	建築設計事務所にて建築設計、インテリアコーディネーターの経験をもつ教員が顧客の要望、ニーズに応え、イメージを実現すべくプランを立てるためのプレゼンテーションツールの技法を演習により修得する。	2 ②	36		△	○		○							○	

35	○		コーディネーター演習Ⅲ	環境や技術など急速に変化する社会を背景にインテリアコーディネーターの役割は重要になっています。建築設計、コーディネーターの実務経験から多様な生活空間のアドバイザーとしての必要な要素、知識を教科書にそい、現場経験を講義する。	2 ① ②	144		○	△		○		○
36	○		卒業制作	建築設計、施工及びインテリアコーディネーターなど空間デザイン分野の実務経験を持つ教員により学生各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 通	336				○		○	○
合計					36	科目	1920				単位時間		

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1学年の学期区分	3期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1学期の授業期間	11週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																																														
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日	校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																														
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																																														
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日	理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																														
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																																													
工業	工業専門課程	建築・インテリアデザイン 科 (家具デザイン専攻コース)			平成22年文部科学省告示 第152号	-																																													
学科の目的																																																			
建築・インテリアデザイン・家具等の、空間デザイン分野における幅広い知識と実践に必要な技術と実践に必要となる技術と実践に必要となる人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。																																																			
認定年月日																																																			
平成27年2月17日																																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																												
2年	昼間	1920	564	1356	0	0	0																																												
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																													
80人		68人の内数	0人	4人	11人	15人																																													
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:試験、課題、平常点、出席点																																														
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級条件	卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																														
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) 建築設計事務所、工務店、ハウスメーカー、家具・インテリア雑貨販売店等 ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。 ■卒業生数 0 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 0 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するもの記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 0			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																																
中途退学の現状	■中途退学者 4名 令和3年4月1日時点において、在学者68名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者64名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学のための理由 進路変更、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・担任による個別面談、並びに保護者を交えた面談等			■中退率 6%																																															
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0 評価結果を掲載したホームページURL 0																																																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会 監事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
田中 誠一	株式会社コムハウス 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
堀川 未樹	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
中田 有紀	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月27日 14:00～15:00

第2回 令和4年3月16日 10:30～11:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

【第1回】

(意見)コロナ渦でのリモート授業の増加に伴い、在宅において尚、学生の学習意欲が高まるような工夫をして頂きたい。
(取組)各教室でリモート対応できるようカメラ等の環境整備を行った。放課後の時間などもリモート相談を受け付け、個別リモートによる学生の積極性の向上を図った。

(意見)業界全体で施工管理に従事する人材の需要が特に増えていることから、これまで以上に業界や学生の希望に更に寄り添った就職指導が不可欠と考えられる。専攻コースの内容や授業等の工夫をして頂きたい。

(取組)施工管理志望の学生が増えている動向に伴い、施工管理特化の専攻コースを新たに創設することとし、具体的なカリキュラムの編成を図った。

【第2回】

(意見)施工管理に特化した建築エンジニアリング専攻の新設に伴い、実践的に学べる学習内容となるよう工夫して頂きたい。

(取組)施工管理の実務でも汎用されるCADの導入を検討し、座学や実習を通して一連の実践的内容を行えるようにカリキュラムを編成、強化した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 空間デザインに関連する業界における実践的な技術や知識を有する人材を育てることを目的とし、授業内容について企業側講師と担当教員が十分な検討を行ったうえで、できる限り企業・業界の現場における実務プロセスやノウハウを重視した授業展開を行うことを基本方針とする。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後は企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。		
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
空間デザイン発想演習	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達はブレインストーミング法、KJ法の実習を通して修得する。これらの発想手法を活用し、生活面に潜む多くの課題解決にアイデアを拡大。斬新な解決手法をビジュアルにまとめ、第三者にプレゼンする。	株式会社TK+
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にやっていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	Vectorworks教育シンポジウム2021 Web版	連携企業等: エーアンドエー株式会社
期間:	2021年9月10日(金)17:30~19:00	対象: 建築・インテリア業界
内容:	建築系CADの表現手法、および全国より選抜された学生による建築設計・計画の研究成果の発表・講評	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学びを実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「〜ライフスタイルに寄り添う空間づくり〜暮らしを楽しむインテリアコーディネーター」	連携企業等: SINCOL
期間:	令和4年6月24日(金)15時~16時	対象: 建築・インテリア業界
内容:	開発担当者による住宅向け見本帳カタログコンセプトの紹介、様々なメディアで活躍するインテリアコーディネーターが住空間の提案を行う。最新の内装材やインテリアコーディネーター提案の手掛かりを知る。	
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(工業専門課程建築・インテリアデザイン 科 (家具デザイン専攻コース))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		設計製図演習	建築設計に先立ち、製図用具の使い方から線の描き方等の基礎技術を修得する。建築設計製図の模写課題を通じ、実際に建築設計や現場で必要とされる建築設計製図の技術及び図面の読解力を修得する。	1 ① ②	108		△	○		○		○		
2	○		建築計画 I	建築設計業務に携わった経験を持つ教員が、設計を行う上で必要となる基本的な寸法や各部の要点について解説した後、生活の基盤となる住空間から各種建築物にわたる様々な建築物の特徴や計画要点について解説を行う。	1 通	32		○			○		○		
3	○		空間意匠論	大学や専門学校で建築設計を教えた経験を持ち、建築設計事務所で意匠設計に携わった教員が、その見識や経験を活かしての講義をする。デザインは唯一の解答を持つものではなく、個々の持つ価値観・背景等が主観を構成し、それが社会と対話することにより生み出される。本講義では、これまで創られてきた建築・インテリア空間などを作者の考えと共に紹介し、学生に空間を構成しうる多様な価値観・概念を習得させることを目的とする。	1 通	32		○			○		○		
4	○		建築デザイン史	欧米の大学に留学経験があり、建築設計事務所で建築意匠に携わっている教員が、その見識や経験を活かした建築史の講義をする。建築設計上、意匠の占める要素は非常に大きいといえる。日本・西洋建築史で各時代背景とともに、国ごとの政治・経済・宗教・気候風土・生活様式等の違いと、建築技術や材料の変化の過程を学ぶことで、建築の創造の原点にあるそれぞれの価値観を習得する。	1 通	32		○			○		○		

5	○		構造力学 I	力学の概念、力のつりあい、力とモーメント、断面の性質などの基本的事項の習熟に重点を置き、建築物などにどのような力がかかっているのかを学習する。具体的には、荷重と反力、静定ラーメン、トラス構造、不静定構造に等について教科書に沿って解説し、基礎的な問題での演習を交えることで理解を深める。	1 通	32		○		○		○							
6	○		一般構造	現役建築士が、監理業務において担当した実例や現場での経験談を交えながら、3つの主要な構造（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造）の概要や構成、材料の特徴・特性等について講義する。	1 ②	36		○	△		○			○				○	○
7	○		建築材料学	建築には長い歴史があり、いろいろな用途があり、様々な取り決めがある。その建築がどうい歴史をたどって発展してきたのか、また材料にはどんな特徴があるのか、どう使用されるのか、さらに環境問題など、人々の生活の身近にある材料の知識を建築設計、コーディネートの実務経験から解説し施工の面からも理解を深める。	1 通	32		○	△		○								○
8	○		施工	現場監督として勤務経験を有する教員が、建築工事着工前から完成に至るまでの工程全般に関して、基礎的知識や概要等を解説する。具体的には、施工計画の工程表作成方法や、材料管理・品質管理の考え方、各工事ごとの要点や種類・規定の詳細を図式やイラストを用いて理解を深める。さらに、コストの検討や測量方法、契約や仕様書の概要も解説し、建築工事全体の流れも講義する。	1 ②	36		○			○								○
9	○		CAD演習 A	建築設計業務においてCAD製図に携わった経験を持つ教員が、コンピュータの基本操作から、2次元汎用CAD（jwcad）を利用した実務的な建築製図に必要な知識や技術を指導する。	1 ① ②	108				○		○							○

10	○			パースペクティブ演習	本講義は建築設計の分野では立体図形の把握と表現は非常に重要な基礎能力である。この演習では、各種投影図法についての講義と演習課題により透視図の制作方法を修得する。	1 ②	36		△	○	○	○						
11	○			建築造形演習	造形に関わる基本的な考え方や工程、表現技法についての演習を行う。着眼、発想を元にしたコンセプトワークにはじまり、エスキス、図面化から造形に至るプロセスを通じて、思考と美的造形の表現力を深める。	1 ② ③	84			○	○	○						
12	○			3Dモデリング演習	VectorWorksの基本操作を学び、3Dモデルの描画法、視点のシュミレーション等を修得する。 椅子、本棚、ソファといった家具のモデリングを通じ、テクスチャの貼り方、レンダリング法など3Dモデルの技術を修得する。	1 ③	24			○	○	○						
13	○			色彩学	色彩についての基礎概念を理解し、色がどのような影響を与えるのか、その心理的な役割や効果、調和のとれた配色技法を修得する。また建築やインテリアだけに留まらず、ファッションやプロダクト、ビジュアルデザインやディスプレイデザインなど様々な分野での基本的な配色技法を修得する。	1 ①	12			○	○	○						
14	○			色彩学演習	色彩学で修得した配色技法等を実践的な課題制作を通じ体験的に学ぶ。課題としてはインテリアパースやエクステリア、建築外観パース等に色彩計画をするなど、現場で必要とされる色彩についての知識や配色技法、また色彩感覚を養うものとする。	1 ①	24			○	○	○						

15	○		グラフィック演習	広告・看板等のグラフィックデザインの実務経験のある講師により、DTP(デスクトップパブリッシング)ソフトであるAdobe Illustrator・Photoshopにて実践的な基本操作を学び、作品集のまとめや最終課題である卒業制作でのプレゼン用ボードのレイアウトテクニックを修得します。	1 ③	24			○	○	○							
16	○		デッサン	実技デッサンを通して 正しく物体を認識し正しく描き写すことは非常に重要な基礎能力である。更にアドバンスして構成・造形・応用デッサンを習得することにより、単なるデッサンから「表現力」へと導くことである。	1 通	96			○	○	○							
17	○		コーディネート演習 I	住宅メーカーでコーディネーターとして勤務経験を有する教員が、インテリアコーディネートの基礎を解説しながらコーディネートボード作成の実習を指導する。具体的には、インテリア構成要素の分析方法を学習し、実習として空間イメージボード・抽象イメージボード・外観イメージボードの作成を行う。最後に、自室空間のリフォーム提案の課題を通し、空間寸法の読み取り方や平面図作成の基本修得、イメージを他者に伝える為のボード作成方法を学習する。	1 ①	36		△	○	○	○							
18	○		家具デザイン演習	大川産地の家具デザイン及び制作指導の経験を有する教員が住空間に内包されるところの構成要素（インテリア・エレメント）の計画・設計をする領域の家具デザインにおける基本的な形態や材料・構造・人間と道具・空間とのかかわり方、人間の行為行動のサポートのために生まれてきた家具を「より快適に」「楽に」「無駄なく」などの要素を人間工学などで考察し、インテリアの基礎知識を基盤とし、デザインを現実化するための製図やパースの表現方法をまなび、体に優しいデザインについて考える方法論や演習を行う。	2 ②	36		△	○	○	○							
19	○		社会研究 I	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職活動の具体的方法を学ぶ。	1 ① ③	20			○	○	○							

25	○			プロダクト設計A	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達は照明機器のテーマでプロダクト設計プロセスを習得する。①室内空間の照明条件の洗い出し、②条件に沿ってアイデア展開。③構造設計、材料選択、価格設定、販売方法などプロダクト設計の基礎を学ぶ。	1 ③	24			○		○			○
26	○			建築設備	設備設計事務所での勤務実績がある者が、その経験を生かし建築設備（給排水・冷暖房・換気・電気・防災）の基本的知識の理解を目標にし、建築物における設備の重要性を説く	2 ①	36			○		○			○
27	○			建築法規	建築基準法は社会情勢の変化等に応じて改正され、複雑化している。建築及び都市の計画、構造環境の全体像を把握するために、建築及び都市に関する法規や建築手法にわたる全般について修得する。	2 ①	24			○		○			○
28	○			CAD演習B	VectorWorksを利用した2次元製図技法及び3Dモデリングの描画法を修得する。視点のシュミレーション等を通じ、体感的に立体把握をするとともに、図面表現やシュミレーションを活用したプレゼンテーションにかかる技術までを目的とする。	2 ① ②	108			○		○			○
29	○			ディスプレイ演習	公共施設の展示スペースにおいて、設定されたクライアントの要望に沿ったディスプレイの企画立案を行う。授業当初に4~5人のグループを設定し、グループワークとして企画立案を行う。グループごとのプレゼンテーション後、実制作案を1案決定し、クラス全員で制作・設置を行う。	2 ①	36			○		○			○

30	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 ①	12		○		○		○						
31	○		ビジネス概論	1、経営コンサルタントとしての実務経験のある教員が、企業や店舗において売上・利益を上げる基礎知識を身に着けるために学生に身近な各種業界における収益構造について事例を参考に教える。2、マーケティング（販売促進）の実務経験のある教員が企業の販促活動や広告の手法など、将来、企画・提案のできるデザイナーになるために知っておくべき事項について教える。	2 ①	12		○		○			○					
32	○		空間デザイン 発想演習	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達はブレインストーミング法、KJ法の実習を通して修得する。これらの発想手法を活用し、生活面に潜む多くの課題解決にアイデアを拡大。斬新な解決手法をビジュアルにまとめ、第3者にプレゼンする。	2 ①	36			○		○				○		○	
33	○		ビジネススキル演習	ビジネス用アプリケーションソフトを扱う力は、現代では標準スキルとして求められる。本演習では、Microsoft officeのアプリケーションであるWord、Excel、PowerPointについての基本操作について解説した後、実務において必要な応用スキルを身につけるための実践的演習を行う。	2 ③	36			○		○				○			
34	○		家具設計B	大川産地の家具デザイン及び制作指導の経験を有する教員が家具雑貨の提案、企業コラボ企画を通してインテリアの基礎知識を基盤とし、豊かな想像力と機能性を融合させたデザイン力やスケッチやパースなどの表現力、プレゼンテーション能力を身に付ける。	2 ① ②	54			○		○							○

35	○	○	○	○	プロダクト設計B	家電メーカーでデザイン開発の実務経験のある教員が、その経験を活かして指導し、学生達は加湿器のテーマでプロダクト設計プロセスを習得する。①室内空間の空調条件の洗い出し、②条件に沿ってアイデア展開。③構造設計、材料選択、価格設定、販売方法などプロダクト設計の基礎を学ぶ。	2 ① ②	54			○		○				○
36	○	○	○	○	コーディネーター演習Ⅱ	建築設計事務所にて建築設計、インテリアコーディネーターの経験をもつ教員が顧客の要望、ニーズに応え、イメージを実現すべくプランを立てるためのプレゼンテーションツールの技法を演習により修得する。	2 ②	36		△	○		○				○
37	○	○	○	○	コーディネーター演習Ⅲ	環境や技術など急速に変化する社会を背景にインテリアコーディネーターの役割は重要になっています。建築設計、コーディネーターの実務経験から多様な生活空間のアドバイザーとしての必要な要素、知識を教科書にそい、現場経験を講義する。	2 ① ②	144		○	△		○				○
38	○	○	○	○	卒業制作	建築設計、施工及びインテリアコーディネーターなど空間デザイン分野の実務経験を持つ教員により学生各自が自由に設定したテーマに対し、これまで習得してきた建築やインテリアなどの空間デザイン領域に関する専門的な知識や技術、感性、表現等を使い、これからの社会への問題提起・解決に向けての提案を行っていく。	2 通	336			○		○				○
合計							38	科目				1920					単位時間

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1学年の学期区分	3期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1学期の授業期間	11週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																																
熊本デザイン専門学校	平成5年12月24日	校長 内藤謙一	〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																																
学校法人未来創造学園	平成22年3月2日	理事長 吉山昌利	〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																															
文化・教養	文化教養専門課程	ファッションデザイン科アパレルデザイン専攻コース (令和5年4月入学生より「クリエイティブ専攻コース」へ名称変更)	平成14年文部科学省告示第19号	-																																															
学科の目的	ファッションにとどまらず、ライフスタイルまでを提案できる幅広い視野を持った人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。																																																		
認定年月日	平成27年2月17日																																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																												
2年	昼間	1920	360	1548	12	0	0																																												
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																														
50人	10人の内数	0人	5人	6人	11人																																														
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準:試験、課題、平常点、出席点																																														
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月24日～1月5日 ■学年末:3月20日～3月31日			卒業・進級条件	卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																														
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等 ■サークル活動: 有																																														
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) アパレルメーカー、アパレル生産企業、小売企業 ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。 ■卒業生数 3 人 ■就職希望者数 3 人 ■就職者数 2 人 ■就職率 67 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 67 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩検定</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定2級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>パターンマーキング技術検定2級</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 0			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	色彩検定	③	3人	3人	ファッションビジネス能力検定3級	③	3人	3人	ファッションビジネス能力検定2級	③	3人	3人	パターンマーキング技術検定2級	③	3人	2人																								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																																
色彩検定	③	3人	3人																																																
ファッションビジネス能力検定3級	③	3人	3人																																																
ファッションビジネス能力検定2級	③	3人	3人																																																
パターンマーキング技術検定2級	③	3人	2人																																																
中途退学の現状	■中途退学者 5 名 令和3年4月1日時点において、在学者 1 8 名 (令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者 1 3 名 (令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・担任による個別面談、並びに保護者を交えた面談等			■中退率	28 %																																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0 評価結果を掲載したホームページURL: 0																																																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。
 教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会 副会長兼企画委員長 / 総合企画株式会社 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
松本 雪	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務主任ファッションデザイン分野	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
平野 恵子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務ファッションデザイン分野	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月5日 14:00～15:00

第2回 令和4年3月17日 10:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第一回目の会議では、令和3年度の学科カリキュラム、および企業と連携して行ったアパレル実習の実施報告に基づき、授業や実習の効果を上げるための意見交換がされた。さらに、次年度広報へ向けたカリキュラムやコース編成の見直し等も検討し、意見交換を行った。特に急激に変化しているアパレル業界に対応するため、ECやSNSコミュニケーション等の授業を組み込むことも検討した。

第二回目の会議では令和3年度の反省点をあげ、次年度へ向けての指導内容や方向性に対して意見をいただいた。一回目で検討したECとSNSコミュニケーションの授業に関する進捗状況の報告と、それに対する意見をいただき、令和4年度から具体的に取り入れる方向で話し合いを進めた。また、令和4年度広報で新コース編成を告知することに関する意見交換も行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 アパレル業界での即戦力を旨とするために、実店舗にて接客、販売、商品管理等に必要な知識・技術を習得させる。必要知識を得るために、現場担当者(専門的知識・技術を有する方)による演習や、長年熊本のファッションの移り変わりを見てきた上での、熊本ファッションの歴史や、地域生活者の特性や動向に関する考え方を身に付ける。職種を問わず、商品の最終段階にあたる店舗販売を通して、学生自身のスキルアップと目的意識の明確化を目的に授業を展開することを基本方針とする。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 授業科目の担当教員と受け入れ企業の担当で演習前に事前打ち合わせを行い、演習内容とスケジュールを決定する。店頭での演習には担当教員も同行し、学修状況についてはレポートとディスカッションで確認する。終了時の報告会にて各自報告を行うとともに、その後担当者との情報交換を行い、その内容と報告書、レポートをもとに担当教員と担当で成績評価を行う。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
アパレル演習	アパレル業界での店舗運営から、お客様に必要なとされるお店作りや品揃え、接客などについてを修得する。実店舗を見学し、そのブランドの歴史やコンセプト、VMDやお客への伝え方などを学び、アパレル販売の中で基本となる接客技術をはじめ、サイジング、ディスプレイ技術などを身に付ける。	有限会社 有田
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	3Dモデリングが巻き起こす改革が志望者増、就職率上昇を生み出す!	連携企業等: 一般社団法人ファッションデザインエンジニアリング協会
期間:	2021年9月30日(木)17:30~19:00	対象: 一般
内容:	3Dモデリングによって「何がどこまで、どう変わるのか」「現場や働き方への波及効果」を明らかにし、カリキュラムを先行導入した学校の事例を交えて新しいスキルを習得した人材育成の重要性を語り合う。	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学び」を実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先行事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「第13回FaW TOKYO(ファッション ワールド 東京) [秋]」	連携企業等: RXジャパン株式会社
期間:	令和4年10月18日(火)~20日(木)	対象: アパレル業界
内容:	アパレル・バッグ・シューズなど、あらゆるファッション商材が出展する総合展。話題の「サステナビリティ」、「DX」など最新の製品・サービスが揃う。セミナーも行われ、「デジタルファッション」「仮想試着」「メタバース」、「サステナブルファッション」など大きく変わり行くアパレル業界について学ぶ。	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッションデザイン科アパレルデザイン専攻コース (令和5年4月入学生より「クリエイティブ専攻コース」へ名称変更))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
								講 義	演 習	実験・ 実習・ 実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択 必修	自由 選択													
1	○		素材学	ファッションの材料となる素材の基本的性質を知ると共に、多くの生地に触れてその感覚や使い方を身につける。その特性とそれを活かす方法を理解することで実践的に役立て、また、取り扱いを理解することで、より専門的知識を持ったデザイナーやアドバイザーを目指す。市場で使われている生地の名前や、そのアイテムとの関連なども学修する。	1年	32		○			○		○		
2	○		服飾史	西洋服飾の歴史を学ぶ。歴史上でどのような文化のもと、どのように美意識が変化していくのか、またそれにより人々のファッションに対する考えやそのデザインがどのように影響を受けていくのかを学修する。過去の時代背景とファッションの関連を学ぶことにより、今後の流行を予測する力を身につける。	1年	32		○			○		○		
3	○		パターンメイキング	採寸から基本アイテムの製図まで、パターンメイキングの基礎を指導する。体と服とゆとりの関係を理解し、演習を通して平面から立体を作り出す構成感覚を身につけ、工業用パターンの作成までを行う。	1年前中期	##			○		○			○	
4	○		ソーイング	アパレル生産の基礎を指導する。職業用ミシン、工業用ミシン、ロックミシン、工業用アイロン等の操作方法を身に付け、スカート、パンツ、シャツ、ジャケット等の基本的なアイテムの構成を理解し、演習を通して既製の縫製技術を身に付ける。	1年前中期	##			○		○			○	
5	○		ベーシックデザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1年前中期	72			○		○			○	
6	○		総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1年前中期	24			○		○			○	
7	○		デザイン画Ⅰ	人体のバランスの取り方から、イメージしたデザインを表現するための技術までを基礎から指導する。	1年前中期	72			○		○			○	

8	○		ファッション ビジネス論 I	ファッション産業の仕組みや特性について解説する。 産業構造、ビジネスの特性と変遷、社会と消費者の変化等、業界全体の現状を把握し、業態別ビジネスの特性、MD基礎知識とブランド展開についての基礎的な知識を身に付ける。	1 年前 中期	60		○		○		○					
9	○		スタイリング コーディネー ト	ファッションアイテムに関する基礎知識とスタイリングコーディネートの方法を指導、また、スタイリングコーディネートに必要なヘアアレンジ、メイク方法、ポージングやウォーキングの指導をする。アイテム名、ディテール、シルエット、ラインなど、商品に関する基礎知識を身につけ、スタイリングコーディネートでの応用力を身につける。	1 年前 中期	40			○		○		△		○		
10	○		ファッション マーケティ ング	プランニングの基礎となるターゲット企画や情報分析等を指導する。クラスター分析を行いイメージマップの作成とライフスタイルをはじめとする周辺情報を収集・分析する力を身につける。市場調査の方法を身に付け、トレンド情報やブランド情報を収集・分析する能力を身に付ける。	1 年前 中期	60			○		○		○				
11	○		ファッション デザイン論	ファッションデザインを学ぶうえで必要となる基本的な知識を学修する。ファッションデザインとは何か、また、その考えをどのように表現していくのか、そこに必要な知識・技術を身につける。デザインプロセスや造形の基本テクニック、などを学び、他の科目で実践的に身につけられる入口になるよう連携を図る。	1 年前 期	12			○		○		○				
12	○		販売概論	ファッション販売の概要とショップスタッフの対応力、快適な売場運営について指導する。 今、実店舗に求められるショップスタッフの役割を理解し、お客様の購買行動と心理プロセスに沿った対応力を修得する。	1 年前 中期	36			○		○		○				
13	○		修了制作	オリジナルデザインの提案を指導する。1年間の集大成としてマーケティングリサーチからコンセプトワーク、デザイン、パターン、ソーイング、企画書作成、プレゼンテーションまでを一貫して行う。	1 年 中 後 期	##				○		○		○			
14	○		ビジネスマ ナー	百貨店において、接客サービスに従事し、接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感もてるマナーやコミュニケーション力を修得する。	1 年前 期	24			○		○		○				
15	○		社会研究 I	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職活動の具体的方法を学ぶ。	1 年 中 後 期	20			○		○		○				
16	○		アパレルパ ターンメイ キング I	パターンメイキング技術の応用として、2年次で制作する総裏仕立てのジャケット又はコートの作図を指導する。演習を通して素材やデザインに合わせた作図の応用技術を身に付ける	1 年 後 期	24				○		○			○		

17	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2 年前期	12		○		○		○							
18	○		ファッションマーケティング	アパレル業界におけるマーケティング、及びプランニングの流れを解説し、実践する。 マーケットリサーチ、ロジカルシンキングを通し、市場の流れ、業界動向、流行を読み取る力を修得する。	2 年前中期	24			○		○		○						
19	○		グラフィックデザイン	IllustratorとPhotoshopのアプリケーションソフトを使ってポスター、リーフレット、カタログ制作やWebサイト制作など広報ツール制作について指導する。	2 年	84			○		○		○						
20	○		マーチャンダイジング論	マーチャンダイジング理論を解説する。業界全体の流れを把握し、アパレル企業、及び、小売企業におけるマーチャンダイジングの特性と業務フローを理解し、企画、品揃え、販売計画立案の手法を学ぶ。生活者のライフスタイルにおいての洞察力を高め、察知した商品を具現化し、売れるように仕組む演出力、技術を修得する。	2 年前期	24			○		○		○						
21	○		品質管理	アパレルに求められる品質と消費性能について理解し、品質基準、品質管理、品質評価、洗濯などの取り扱い方法や品質表示について学ぶ。実践的なしみ抜きなども取り入れ、現場で役立つ品質にかかわる知識を身につける。また、お客様に伝えるべき品質と取り扱いを理解し、その伝え方やクレーム対策についても学ぶ。	2 年前期	12			○		○		○						
22	○		SNSコミュニケーション	ファッションの現場で多く使用されているInstagramに重点を置き、演習を交えながら情報の発信方法やファン育成のノウハウといったセルフブランディングのための基礎スキルを指導し、就職後、即戦力となるような人材育成を行う。	2 年中期	20				○		○							○
23	○		WEBビジネス	WEBビジネスや、EC(Electronic Commerce電子商取引)において、知っておくべき基礎知識と、一個人でもECの開設、運用ができる力を養い、ネット市場とネットショップ運営に関する授業を行う	2 年中後期	36				○		○							○
24	○		デザイン画Ⅱ	一年次に履修したデザイン画の基礎をもとに 素材や質感ディテールなどを表現技法と合った画材の選出を含め 自分のイメージ通りに表現する手法を指導する。	2 年前期	36				○		○							○
25	○		ファッションビジネス論Ⅱ	ファッションビジネスの総合的、かつ高度な理解を目的とた、実務的な応用理論を解説する。国内のみならず、世界のファッションビジネスの変遷と現状、産業構造やビジネスシステムについて理解を深める。	2 年前中期	72				○		○							○

26	○		アパレル演習	実際の店舗での接客・販売技術を指導する。実際の店舗においてブランドや商品の知識を身に付ける。また、アパレル販売の中で基本となる接客技術をはじめ、サイジングやお直し、ディスプレイ、ロールプレイングなどを行い、店頭でのインターシップを通してそれらの技術を実践的に身に付ける。	2 年前期	12		△	○	△	○	○	○
27	○		スタイリングワーク	それぞれのテイストに合わせたスタイリング技術を指導する。また、Instagramファッションアカウントを運用し、ファッションページの制作を指導する。	2 年中期	24			○		○		○
28	○		卒業制作	オリジナルブランドのプロデュースを指導する。グループワークにより、マーケティングリサーチからコンセプトワーク、デザイン、パターン、ソーイング、コーディネート、広報、販売展開までを一貫して行う。	2 年中後期	##			○		○		○
29	○		ブランドプロデュース	商品企画の基本的な流れを学び、既存のブランド研究をもとに、市場やターゲットにマッチした商品提案力を身につける。ファッションマーケティングの授業と連動させ、市場調査から導いたコンセプトに合わせた提案ができる力を修得する。	2 年	60			○		○		○
30	○		ドレーピング	身体の立体的構造を理解し、ドレーピングの基本的な知識と技術を習得することで、よりデザイン画に近い立体を作り出す技術を身につける。パターンメイキングでの平面製図と連動させながら、よりパターンの仕組みと構造を理解するとともに、ドレーピングだからこそできる立体表現力を身につける。	2 年前期	72			○		○		○
31	○		アパレルパターンメイキングⅡ	パターンの応用としてアイテム、デザイン、素材に応じたファーストパターンから工業用パターン作成法を指導する。パターンメイキング検定2級の内容を取り入れ理解を深めていくと共に、リアルクローズに必要なパターン技術を修得していく。	2 年前中期	72			○		○		○
32	○		アパレルソーイング	業界で即応できる生産技術を指導する。総裏テーラードジャケット又はコートの構成を理解し、演習を通して素材特性を活かした縫製技術を身に付ける	2 年前中期	96			○		○		○
合計					32	科目	1920					単位時間	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1学年の学期区分	3期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1学期の授業期間	11週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																									
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500																																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																									
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656																																									
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																																							
文化・教養		文化教養専門課程		ファッションデザイン科コスチュームデザイン専攻コース (令和5年4月入学生より廃止)		平成14年文部科学省告示 第19号		-																																							
学科の目的		ファッションにとどまらず、ライフスタイルまでを提案できる幅広い視野を持った人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。																																													
認定年月日		平成27年2月17日																																													
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技																																			
2		1920		360		1548		12		0		0																																			
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																																					
50人		10人の内数		0人		5人		6人		11人																																					
学期制度		■1学期: 4月1日～8月31日 ■2学期: 9月1日～12月31日 ■3学期: 1月1日～3月31日				成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 試験、課題、平常点、出席点																																							
長期休み		■学年始: 4月1日～4月7日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月24日～1月5日 ■学年末: 3月20日～3月31日				卒業・進級条件		卒業要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 進級要件: ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること																																							
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 課題を通じ、知識・技能の習得を目指し、必要に応じて補習授業を行う。				課外活動		■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 地域活性化イベントへの参加等																																							
就職等の状況※2		■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) アパレルメーカー、アパレル生産企業、小売企業 ■就職指導内容 面接指導・履歴書作成指導・業界セミナー開催を行い担任、就職課合同で学生をサポートする体制が整っている。 ■卒業業者数 0 人 ■就職希望者数 0 人 ■就職者数 0 人 ■就職率 0 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 0 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3		■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色彩検定</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>ファッションビジネス能力検定2級</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>パターンメイキング技術検定2級</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	色彩検定	③	0人	0人	ファッションビジネス能力検定3級	③	0人	0人	ファッションビジネス能力検定2級	③	0人	0人	パターンメイキング技術検定2級	③	0人	0人																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																												
色彩検定	③	0人	0人																																												
ファッションビジネス能力検定3級	③	0人	0人																																												
ファッションビジネス能力検定2級	③	0人	0人																																												
パターンメイキング技術検定2級	③	0人	0人																																												
中途退学の現状		■中途退学者 5 名 令和3年4月1日時点において、在学者 1 8 名 (令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者 1 3 名 (令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 ・担任による個別面談、並びに保護者を交えた面談等				■中退率 28 %																																									
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 指定校推薦入学、特待生制度、奨学生制度、学生・社会人等支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																													
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0 評価結果を掲載したホームページURL 0																																													

※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。
 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの
 ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの
 ③その他(民間検定等)

■自由記述欄
0

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。
 教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会 副会長兼企画委員長 / 総合企画株式会社 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
高峯 英幸	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 統括部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
千田 浩一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
松本 雪	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務主任ファッションデザイン分野	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—
平野 恵子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務ファッションデザイン分野	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(3月、8月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月5日 14:00～15:00

第2回 令和4年3月17日 10:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第一回目の会議では、令和3年度の学科カリキュラム、および企業と連携して行ったアパレル実習の実施報告に基づき、授業や実習の効果を上げるための意見交換がされた。さらに、次年度広報へ向けたカリキュラムやコース編成の見直し等も検討し、意見交換を行った。特に急激に変化しているアパレル業界に対応するため、ECやSNSコミュニケーション等の授業を組み込むことも検討した。

第二回目の会議では令和3年度の反省点をあげ、次年度へ向けての指導内容や方向性に対して意見をいただいた。一回目で検討したECとSNSコミュニケーションの授業に関する進捗状況の報告と、それに対する意見をいただき、令和4年度から具体的に取り入れる方向で話し合いを進めた。また、令和4年度広報で新コース編成を告知することに関する意見交換も行った。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 アパレル業界での即戦力を旨とするために、実店舗にて接客、販売、商品管理等に必要な知識・技術を習得させる。必要知識を得るために、現場担当者(専門的知識・技術を有する方)による演習や、長年熊本のファッションの移り変わりを見てきた上での、熊本ファッションの歴史や、地域生活者の特性や動向に関する考え方を身に付ける。職種を問わず、商品の最終段階にあたる店舗販売を通して、学生自身のスキルアップと目的意識の明確化を目的に授業を展開することを基本方針とする。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 授業科目の担当教員と受け入れ企業の担当で演習前に事前打ち合わせを行い、演習内容とスケジュールを決定する。店頭での演習には担当教員も同行し、学修状況についてはレポートとディスカッションで確認する。終了時の報告会にて各自報告を行うとともに、その後担当者と情報交換を行い、その内容と報告書、レポートをもとに担当教員と担当で成績評価を行う。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
アパレル演習	アパレル業界での店舗運営から、お客様に必要なとされるお店作りや品揃え、接客などについてを修得する。実店舗を見学し、そのブランドの歴史やコンセプト、VMDやお客様への伝え方などを学び、アパレル販売の中で基本となる接客技術をはじめ、サイジング、ディスプレイ技術などを身に付ける。	有限会社 有田
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	3Dモデリングが巻き起こす改革が志望者増、就職率上昇を生み出す!	連携企業等: 一般社団法人ファッションデザインエンジニアリング協会
期間:	2021年9月30日(木)17:30~19:00	対象: 一般
内容:	3Dモデリングによって「何がどこまで、どう変わるのか」「現場や働き方への波及効果」を明らかにし、カリキュラムを先行導入した学校の事例を交えて新しいスキルを習得した人材育成の重要性を語り合う。	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	主体的・対話的で深い学び」を実現する Google 式10X 授業デザイン研修	連携企業等: 一般社団法人全国専門学校教育研究会
期間:	令和3年8月19日(木)13時~15時	対象: 専門学校教職員等
内容:	Google Classroom を使用した模擬授業・体験型のオンラインセミナー	
研修名:	職業教育の質向上に向けた取組 先進事例から学ぶ『職業教育のマネジメント』	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和4年3月2日(水)13時30~15時30分	対象: 専門学校教職員等
内容:	職業教育のマネジメントのポイントを先行事例の紹介を通じて学ぶオンラインセミナー	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	「第13回FaW TOKYO(ファッション ワールド 東京) [秋]」	連携企業等: RXジャパン株式会社
期間:	令和4年10月18日(火)~20日(木)	対象: アパレル業界
内容:	アパレル・バッグ・シューズなど、あらゆるファッション商材が出展する総合展。話題の「サステナビリティ」、「DX」など最新の製品・サービスが揃う。セミナーも行われ、「デジタルファッション」「仮想試着」「メタバース」、「サステナブルファッション」など大きく変わり行くアパレル業界について学ぶ。	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	専門学校入学生の「基礎学力」の実態と指導のポイント	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年7月20日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	基礎学力の低い学生の実態をデータから紐解き、アプローチの仕方を学ぶ。	
研修名:	「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」ICT活用研修	連携企業等: デジタルハリウッド
期間:	令和4年8月25日(木)13時~26日(金)13時	対象: 専門学校教職員等
内容:	ICT活用研修、特に、学習効果を上げるための動画教材の設計・開発と、その活用や評価ができることを目的に開催された研修	
研修名:	DX時代に求められる専門学校教育を考える会	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和4年9月15日(木)16時~17時	対象: 専門学校教職員等
内容:	産業界の現状と課題、求められる人材像を考察し、変化する社会に対応した新たな教育事例を知る。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営については概ね良い評価をいただいた。教職員が卒業生の在席する企業に出向き、卒業生の就業状況の把握や業界動向等のヒアリングを行っているところである。今後、収集した情報を専攻構成やカリキュラム等に反映させていきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
西山 喬	くまもとファッション協会副会長兼企画委員長 ／総合企画株式会社 代表取締役会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
川口 滋	くまもとデザイン協議会 会長／有限会社ターク代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	企業等委員
城本 信佐	熊本学園大学付属高等学校 副校長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	高等学校関係者委員
藤本 亜紀子	在校生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和4年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ファッションデザイン科コスチュームデザイン専攻コース(令和5年4月入学生より廃止))															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			素材学	ファッションの材料となる素材の基本的性質を知ると共に、多くの生地に触れてその感覚や使い方を身につける。その特性とそれを活かす方法を理解することで実践的に役立て、また、取り扱いを理解することで、より専門的知識を持ったデザイナーやアドバイザーを目指す。市場で使われている生地の名前や、そのアイテムとの関連なども学修する。	1年	32		○			○		○	
2	○			服飾史	西洋服飾の歴史を学ぶ。歴史上でどのような文化のもと、どのように美意識が変化していくのか、またそれにより人々のファッションに対する考えやそのデザインがどのように影響を受けていくのかを学修する。過去の時代背景とファッションの関連を学ぶことにより、今後の流行を予測する力を身につける。	1年	32		○			○		○	
3	○			パターンメーキング	採寸から基本アイテムの製図まで、パターンメーキングの基礎を指導する。体と服とゆとりの関係を理解し、演習を通して平面から立体を作り出す構成感覚を身につけ、工業用パターンの作成までを行う。	1年前中期	##			○		○			○
4	○			ソーイング	アパレル生産の基礎を指導する。職業用ミシン、工業用ミシン、ロックミシン、工業用アイロン等の操作方法を身に付け、スカート、パンツ、シャツ、ジャケット等の基本的なアイテムの構成を理解し、演習を通して既製の縫製技術を身に付ける。	1年前中期	##			○		○		○	
5	○			ベーシックデザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1年前中期	72			○		○		○	
6	○			総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的事例を専門家の考え方や手法を理解する。	1年前中期	24			○		○			○
7	○			デザイン画 I	人体のバランスの取り方から、イメージしたデザインを表現するための技術までを基礎から指導する。	1年前中期	72			○		○			○

8	○		ファッション ビジネス論 I	ファッション産業の仕組みや特性について解説する。 産業構造、ビジネスの特性と変遷、社会と消費者の変化等、業界全体の現状を把握し、業態別ビジネスの特性、MD基礎知識とブランド展開についての基礎的な知識を身に付ける。	1 年前 中期	60		○		○		○						
9	○		スタイリング コーディネー ト	ファッションアイテムに関する基礎知識とスタイリングコーディネートの方法を指導、また、スタイリングコーディネートに必要なヘアアレンジ、メイク方法、ポージングやウォーキングの指導をする。アイテム名、ディテール、シルエット、ラインなど、商品に関する基礎知識を身につけ、スタイリングコーディネートでの応用力を身につける。	1 年前 中期	40			○		○		△		○			
10	○		ファッション マーケティ ング	プランニングの基礎となるターゲット企画や情報分析等を指導する。クラスター分析を行いイメージマップの作成とライフスタイルをはじめとする周辺情報を収集・分析する力を身につける。市場調査の方法を身に付け、トレンド情報やブランド情報を収集・分析する能力を身に付ける。	1 年前 中期	60				○		○		○				
11	○		ファッション デザイン論	ファッションデザインを学ぶうえで必要となる基本的な知識を学修する。ファッションデザインとは何か、また、その考えをどのように表現していくのか、そこに必要な知識・技術を身につける。デザインプロセスや造形の基本テクニック、などを学び、他の科目で実践的に身につけられる入口になるよう連携を図る。	1 年前 期	12			○			○		○				
12	○		販売概論	ファッション販売の概要とショップスタッフの対応力、快適な売場運営について指導する。 今、実店舗に求められるショップスタッフの役割を理解し、お客様の購買行動と心理プロセスに沿った対応力を修得する。	1 年前 中期	36			○			○		○				
13	○		修了制作	オリジナルデザインの提案を指導する。1年間の集大成としてマーケティングリサーチからコンセプトワーク、デザイン、パターン、ソーイング、企画書作成、プレゼンテーションまでを一貫して行う。	1 年 中 後 期	##				○			○		○			
14	○		ビジネス マナー	百貨店において、接客サービスに従事し、接遇指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身につけ、公的な場面での好感のもてるマナーやコミュニケーション力を修得する。	1 年前 期	24			○			○		○				
15	○		社会研究 I	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職活動の具体的方法を学ぶ。	1 年 中 後 期	20			○			○		○				
16	○		コスチューム パターンメ ーキング I	パターンメイキング技術の応用として、2年次で制作する総裏仕立てのジャケット又はコートの作図を指導する。演習を通して素材やデザインに合わせた作図の応用技術を身に付ける	1 年 後 期	24				○			○				○	

17	○		社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2年前期	12		○		○		○						
18	○		ファッションマーケティング	アパレル業界におけるマーケティング、及びプランニングの流れを解説し、実践する。マーケットリサーチ、ロジカルシンキングを通し、市場の流れ、業界動向、流行を読み取る力を修得する。	2年前中期	24		○		○		○						
19	○		グラフィックデザイン	IllustratorとPhotoshopのアプリケーションソフトを使ってポスター、リーフレット、カタログ制作やWebサイト制作など広報ツール制作について指導する。	2年	84		○		○		○						
20	○		マーチャンダイジング論	マーチャンダイジング理論を解説する。業界全体の流れを把握し、アパレル企業、及び、小売企業におけるマーチャンダイジングの特性と業務フローを理解し、企画、品揃え、販売計画立案の手法を学ぶ。生活者のライフスタイルにおいての洞察力を高め、察知した商品を具現化し、売れるように仕組む演出力、技術を修得する。	2年前期	24		○		○		○						
21	○		品質管理	アパレルに求められる品質と消費性能について理解し、品質基準、品質管理、品質評価、洗濯などの取り扱い方法や品質表示について学ぶ。実践的なしみ抜きなども取り入れ、現場で役立つ品質にかかわる知識を身につける。また、お客様に伝えるべき品質と取り扱いを理解し、その伝え方やクレーム対策についても学ぶ。	2年前期	12		○		○		○						
22	○		SNSコミュニケーション	ファッションの現場で多く使用されているInstagramに重点を置き、演習を交えながら情報の発信方法やファン育成のノウハウといったセルフブランディングのための基礎スキルを指導し、就職後、即戦力となるような人材育成を行う。	2年中期	20		○		○		○						
23	○		WEBビジネス	WEBビジネスや、EC(Electronic Commerce電子商取引)において、知っておくべき基礎知識と、一個人でもECの開設、運用ができる力を養い、ネット市場とネットショップ運営に関する授業を行う	2年中後期	36		○		○		○						
24	○		デザイン画Ⅱ	一年次に履修したデザイン画の基礎をもとに 素材や質感ディテールなどを表現技法と合った画材の選出を含め 自分のイメージ通りに表現する手法を指導する。	2年前期	36		○		○		○						
25	○		ファッションビジネス論Ⅱ	ファッションビジネスの総合的、かつ高度な理解を目的とた、実務的な応用理論を解説する。国内のみならず、世界のファッションビジネスの変遷と現状、産業構造やビジネスシステムについて理解を深める。	2年前中期	72		○		○		○						

26	○		アパレル演習	実際の店舗での接客・販売技術を指導する。実際の店舗においてブランドや商品の知識を身に付ける。また、アパレル販売の中で基本となる接客技術をはじめ、サイジングやお直し、ディスプレイ、ロールプレイングなどを行い、店頭でのインターシップを通してそれらの技術を実践的に身に付ける。	2 年前期	12		△	○	△	○	○	○
27	○		スタイリングワーク	それぞれのテイストに合わせたスタイリング技術を指導する。また、Instagramファッションアカウントを運用し、ファッションページの制作を指導する。	2 年中期	24			○		○		○
28	○		卒業制作	オリジナルブランドのプロデュースを指導する。グループワークにより、マーケティングリサーチからコンセプトワーク、デザイン、パターン、ソーイング、コーディネート、広報、販売展開までを一貫して行う。	2 年中後期	##			○		○		○
29	○		ブランドプロデュース	商品企画の基本的な流れを学び、既存のブランド研究をもとに、市場やターゲットにマッチした商品提案力を身につける。ファッションマーケティングの授業と連動させ、市場調査から導いたコンセプトに合わせた提案ができる力を修得する。	2 年	60			○		○		○
30	○		ドレーピング	身体の立体的構造を理解し、ドレーピングの基本的な知識と技術を習得することで、よりデザイン画に近い立体を作り出す技術を身につける。パターンメイキングでの平面製図と連動させながら、よりパターンの仕組みと構造を理解するとともに、ドレーピングだからこそできる立体表現力を身につける。	2 年前期	72			○		○		○
31	○		コスチュームパターンメイキングⅡ	パターンの応用としてアイテム、デザイン、素材に応じたファーストパターンから工業用パターン作成法を指導する。パターンメイキング検定2級の内容を取り入れ理解を深めていくと共に、リアルクローズに必要なパターン技術を修得していく。	2 年前中期	72			○		○		○
32	○		コスチュームソーイング	業界で即応できる生産技術を指導する。総裏テーラードジャケット又はコートの構成を理解し、演習を通して素材特性を活かした縫製技術を身に付ける	2 年前中期	96			○		○		○
合計					32	科目	1920					単位時間	

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	<ul style="list-style-type: none"> ・出席率が80%以上であること ・当該年次の科目全てに合格すること ・卒業制作または卒業研究に合格すること ・当該年次の授業料等諸経費が完納されていること 	1学年の学期区分	3期
履修方法：	学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1学期の授業期間	11週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。